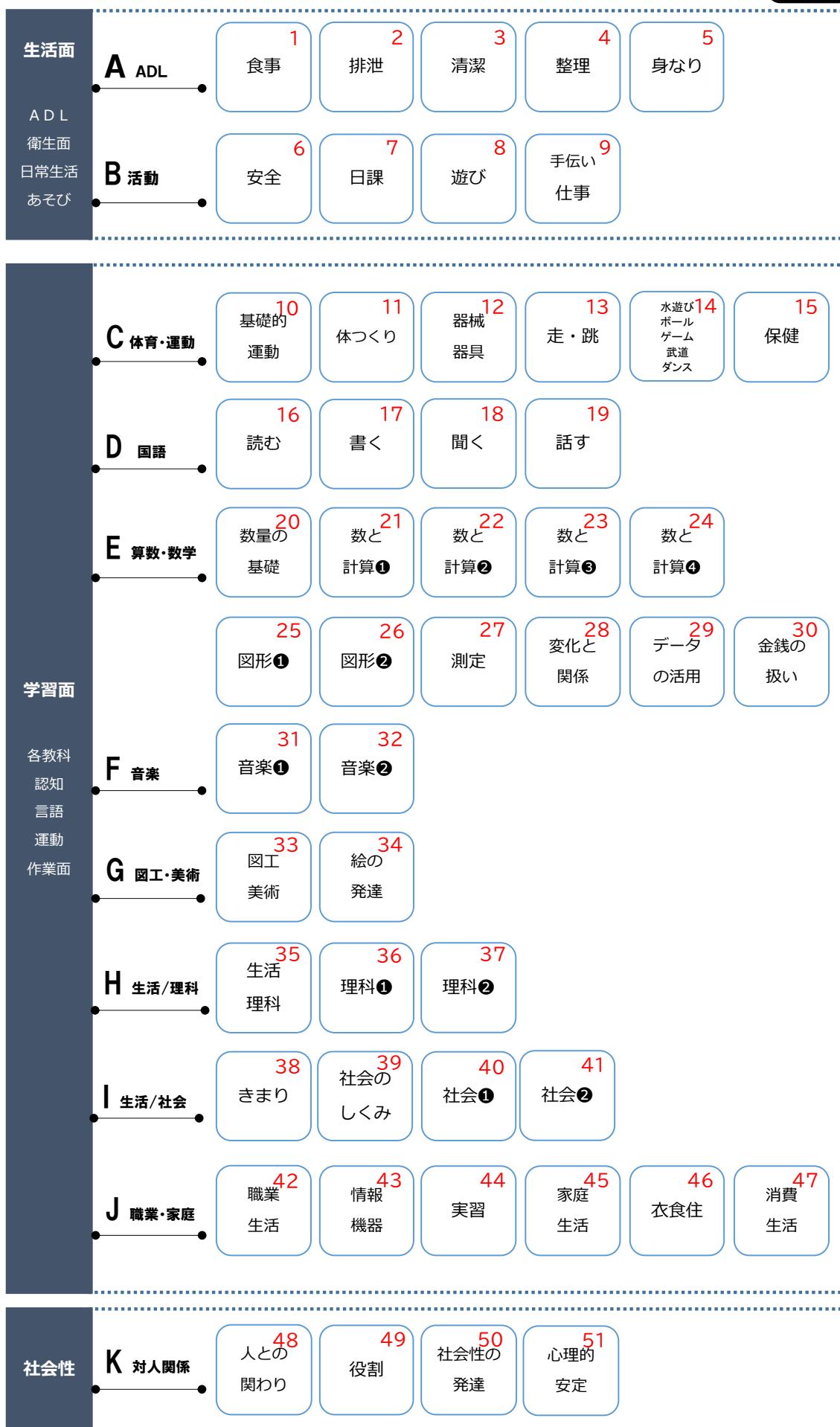
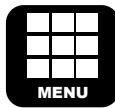


たかつ個別教育計画<教育内容系統表> ver.2.0



たかつ個別教育計画＜教育内容系統表＞について

- この＜教育内容系統表＞は、学習指導要領（平成29年度公示）に基づき、各教科、自立活動及び認知、言語、知覚、運動、社会性の発達段階を基に、教育内容を系統的に整理したものです。
- また、個別教育計画は、教育課程に基づき、児童生徒個々の障害の状態、学習・生活面の課題から、重点的に取り組む内容を具体化するために作成するものです。
- この系統表の学習内容を基に、系統的な個別の目標、具体的な手立てを検討し、個別教育計画に反映させていきます。

- 小・中学校の学習指導要領は、学習内容を学年ごとに示していますが、特別支援学校では小学部3段階、中学部2段階、高等部2段階の計7段階で示しています。
- たかつ教育内容系統表は、この段階を基に作成されていますが、一貫した系統的な学習を行うため、小学部から高等部まで統一して使用します。そこで、段階を次のように示しています。

小学部1段階…T1：様々な学習活動を教師と一緒にを行う

小学部2段階…T2：主に教師の援助を求めながらもできる限り自分の力で行っていく

小学部3段階…T3：できる限り自分の力でおこなっていく

中学部1段階…T4：主体的に活動に取り組み、経験したことを活用したり、順番を考えたりする

中学部2段階…T5：主体的に活動に取り組み、目的に応じて選択したり、処理したりするなど工夫する

高等部1段階…T6：卒業後の家庭生活・社会生活及び職業生活を考慮した基礎的な内容

高等部2段階…T7：卒業後の家庭生活・社会生活及び職業生活を考慮した発展的な内容

* この系統表は、よりよいものにするために少しづつバージョンアップをしています。そのため、項目を移動したり、内容を組み替えたりすることで、1つのページの中で[番号]がつながっていない場合がありますが、誤植ではありません。先生方の不断の検討の軌跡ととらえてください。

領域	中項目	小項目	T1	T2	T3	食事
基本的生活習慣	食事	場	[1] 決まった人と決まった場所で食事をする。	[2] 人や場所が変わっても食事をする。	[3] 多くの人が集まる場所でも普段通り食事をする。	
		食事内容	[4] 食べることに关心を持つ。自分の好きなものに限っては食べる。	[5] 好きではないものも少量は食べる、または食べようとする。	[6] 一日の中で規則正しいリズムで食事をし、好き嫌いなく食べる。必要に応じて食事量を調整する。	
	食前	手洗い	[7] 教師の手添えで食前に手を洗う（いやがらない、協力する）。	[8] 部分的に教師の支援を受けながら食前に手を洗う。	[9] 一人で食前に手を洗う。	
		準備	[10] 教師と一緒にエプロンを身に着ける（いやがらない、協力する）。	[11] 部分的に支援を受けて、エプロンを身に着ける。	[12] 食前に自分でエプロンを身に着ける。もしくはエプロンを必要としない。	
		待つ	[13] 配膳が終わるまで、教師と一緒に座って待つ。	[14] 配膳が終わるまで、ひとりで行儀よく待つ。		
	配膳		[15] 教師と一緒に自分の食器をトレイに置く。	[16] 人数分、一種類の食器や飲料をトレイに置く。	[17] 人数分、各トレイに正しく配膳ができる。	
		挨拶	[18] 教師と一緒に食前・食後の挨拶をする。	[19] 当番の号令に合わせて、食前・食後の挨拶をする。	[20] 当番として食前・食後の号令をかける（教師の指示はない）。	
	用具の使用	スプーン	[21] たまに手づかみはあるものの、教師の手添えを受けながらスプーンを使って食べる。	[22] スプーンを持ち続けるが、適量すぐには教師の支援が必要。	[23] 適量こぼさずにすくう。	
		フォーク	[24] たまに手づかみはあるものの、教師の手添えを受けながらフォークを使って食べる。	[25] フォークで刺すが、時々取り損ねるため支援が必要。	[26] フォークで刺したり、すぐったり、巻いたりして食べる（メニューに合わせた使い方をする）。	
		箸	[27] 握り箸でも自分で箸を使ってみようとする。	[28] つまみやすい食材に限っては、補助箸を使って食べる。	[29] だいたいの食材を箸の種類に限らず食べる。	
ADL	スプーン・フォーク・箸の持ち方	スプーン・フォーク・箸の持ち方	[30] 肩と肘ですくう。 注) フォークで刺す動きの上→下への一方向の動きができる。	[31] 肘と腕ですくう。 注) 手と食具は一体で動く。	[32] 腕と手ですくう（指腹持ち） 注) 指の腹で握ったり、3指に近い形で握ったりする。手を返す動きが加わるが、手首での調整はむずかしい。	[33] 手と指先ですくう 注) 3指の握りの形ができる。
		コップ	[34] カレースプーンやレンゲからすすって飲む。	[35] 一口量の調整を受けながら、コップからすすって飲む。	[36] 一人で連続して飲む。	
		ストロー	[37] コップから導入することが望ましい。パックを押してもらうことで、ストローから口に取り込む。	[38] 一口ずつ、ストローから吸って飲む。	[39] 一人で連続して飲む。	
	食べ方		[40] 摂食機能にあった食形態を、一口量ずつ提供されて食べる。	[41] 摂食機能にあった食形態を、一口量や食べるペースの支援を受けながら食べる。	[42] 摂食機能にあった食形態を、一口量や食べるペースに気を付けて食べる。	
		摂食機能の発達	[43] 初期（ゴックン）：口唇で取り込みペースト状のものを飲み込む⇒中期（モグモグ）：舌の上下運動で柔らかく形のあるものを押しつぶして食べる ⇒後期（カミカミ）：奥歯ですりつぶして少々硬さのあるものを食べる⇒完了期（パクパク）：硬すぎない常食を食べる			
	食事中の態度マナー		[44] 人の食べ物に手を出さない。 食事中、遊んだり立ち歩いたりしない。	[45] 部分的に教師の指示を受けながら、できるだけひとりで食事をする。 教師からマナーを訂正されたときに改める。	[46] ひとりで食事をする。 マナーを守って、周囲の人と楽しく食事をする。	
		片付け	[47] 教師と一緒に自分の食器を片付ける。	[48] 食器ごとにふるい分けて片付ける。	[49] クラスの食器を食堂に片付ける。	
	食後	マナー	[50] 教師と一緒に口の周りや手を拭く（嫌がらない、協力する）。	[51] 部分的に教師の指示を受けながら、自分で口の周りや手を拭こうとする。	[52] 自分で汚れに気づき、口の周りや手を拭く。	

領域	中項目	小項目	T1	T2	T3	排泄
基本的生活習慣	排泄	時間	[53] オムツがぬれていたら教師と一緒にトイレに行く。	[54] 定時に促されて教師と一緒にトイレに行く。	[55] 尿意や便意を催したら、もしくは時間になつたら自分から教師に伝えたり、自らトイレに行ったりする。	[56] 自分で予定を見計らってトイレに行く。
			[57] 決まったトイレを使用する。	[58] 男女のトイレを区別して使用する。	[59] 自分の家や学校以外のトイレを使用する。	
	排泄の仕方	手順	[60] 教師の手添えで行う。教師の動きに協力する。 (例: トイレでオムツを交換する、便座に座る)	[61] 部分的に教師の支援を受けながら、できるだけひとりで手順に沿って行う。	[62] 一人で適切な手順で行う。	
		ペーパーの使用	[63] 教師から手渡されたペーパーを使って拭く。	[64] 使用するペーパーの長さを教えてもらって拭く(視覚的指示を使う)。	[65] 適切な長さを自分で調節する。	
		始末	[66] 教師が拭きとる。拭き取りの間、協力する (便をさわらない、ふきやすい姿勢をとる)。	[67] 教師の手添えで拭く。きれいに拭き取るには教師の仕上げを要する。	[68] 一人で適切に拭き取る。	
	マナー	便器の使用	[69] 男子: 教師の支援を受けながら便器の前にまっすぐ立って用を足す。	[70] 男子: ひとりで便器の前にまっすぐ立って用を足す。	[71] 便器の周りを汚さないように用を足す。汚したときは拭く。	
		鍵の使用	[72] トイレの扉を閉めて用を足す	[73] トイレの鍵をかける意味がわかり、鍵をかけて用を足す(いたずらをしない)。	[74] いろいろな種類の鍵の使用法	
	手洗い		[75] 教師の手添えで用便後に手を洗う(いやがらない、協力する)。	[76] 部分的に教師の支援、声かけを受けながら用便後に手を洗う。	[77] 用便後の手洗いを自分からする。	

領域	中項目	小項目	T1	T2	T3	清潔
基本的生活習慣	清潔	歯磨き	[78] 教師が行うのに協力する。歯ブラシを口に入れることを嫌がらない。			
			[79] 口を閉じて鼻だけで呼吸ができる。	[80] 大人が鼻を抑え、鼻から息を出すよう声かけをするのに合わせて、鼻息を出そうとする。	[81] 自分で片方の穴を押えて、鼻から勢いよく息を吐きだすのに合わせてティッシュペーパーなどを持った手で鼻水を受ける。	
		整容	[82] 教師が濡れタオルで顔を拭く、もしくは水を顔に洗うことを受け入れる。	[83] 部分的に洗顔ができる（容器にためた水をすくって顔をこする⇒蛇口から出る水をすくって顔をこする⇒部分的に教師の支援を受けながら顔を洗う）。	[84] 必要に応じて自分で顔を洗う。	
			[85] 教師と一緒にハンカチやティッシュを用意して使う。	[86] 目的に応じてハンカチやティッシュを自分で使う。	[87] ハンカチやティッシュを自分で管理し、目的に合わせて使う。	
		衣服の汚れ		[88] 衣服が汚れたら、教師と一緒に着替える（いつもの着替えの時間ではなくても着替えることを納得する）。少し濡れた程度でも着替えずにいられる。	[89] 教師の声かけで衣服の汚れや汗に気づき着替える。	[90] 自分で衣服の汚れや汗に気づき着替える。

領域	中項目	小項目	T1	T2	T3	整理
基本的 生活 習慣	身 の 回 り の 整 理	衣服	[91] 教師と一緒に脱いだ服をかごや袋に入れる（たたまなくてもよい）。	[92] 教師の支援を受けながら脱いだ服をたたむ。	[93] 脱いだ服を自分でたたむ、衣服に合わせたたみ方をする。ハンガーを使う。	
		靴	[94] 教師と一緒に靴を決められた場所に置く。	[95] 指示された場所に自分で置く（左右や前後が正しくなくてもよい）。	[96] そろえて置く。	
		かばん	[97] 毎日の決まった物を、教師と一緒に、カバンに入れたり、出したりする。	[98] 決まった場所に自分でかばんを置く。		
		かばんの中の物等	(ふるい分けなくてもリュックから1つのかごに入れたり、教師がかごにまとめた荷物をリュックに移し入れればよい)	[99] かばんに入っている教師が荷物を1つずつ持たせ、片付ける場所がすぐ近くで目に入った時、軽く押してあげるとふるい分ける。	[100] 教師が荷物を1つずつ持たせ、片付けの場所を指したり、声をかければふるい分ける。	[101] 自分でカバンから荷物を出して所定の場所に置く。

領域	中項目	小項目	T1	T2	T3	身 な り
基本的 生活 習慣	身 なり	上衣 (かぶり)	[102] 教師と一緒に着脱する。協力動作をとる。	[103] 教師の部分的な支援で着脱する	[104] 前後、裏表を間違えず自分で着衣する。 表脱ぎで脱衣する（間違えたときは表に返す）。	
			[105] 教師と一緒に着脱する。協力動作をとる。リュックを背負う。	[106] 教師の部分的な支援で着脱する	[107] 前後、裏表を間違えず自分で着衣する。 表脱ぎで脱衣する（間違えたときは表に返す）。	
		下衣	[108] 教師と一緒に着脱する。	[109] 脱ぐことはできる。もしくは教師の部分的な支援で着脱する。	[110] 前後、裏表を間違えず自分で着衣する。 表脱ぎで脱衣する（間違えたときは表に返す）。	[111] 立位でも着脱する。
		ボタン	[112] 教師が衣類をすくいあげると、穴に入れる。	[113] 衣類の下の方のボタンであれば、はずしたり、とめたりする。	[114] 衣類のボタンすべてを自分ではずしたりとめたりする。	
		ファスナー	[115] 教師と一緒にファスナーを上	[116] 教師がホックをとめればファスナーをあげる。 または自分で下げる。	[117] 自分でファスナーを上げたり下げたりする。	
	靴 下 の 着 脱	脱ぐ	[118] 教師と一緒に着脱する。 協力動作をとる。	[119] 教師が手添えで誘導し、踵が出てきたら、引っ張って脱ぐ。	[121] 自分で着脱する。	[122] 立位でも脱ぎ履きをする。
		履く		[120] 教師が靴下の入り口を開いた状態を保持し指先を誘導すると、引っ張って履く。		
	靴の着脱		[123] 教師と一緒に着脱する。協力動作をとる。	[124] 教師の部分的な支援で着脱する。	[125] 自分で着脱する。	
	身だしなみ		[126] 教師が身だしなみを整えるのを受け入れる。	[127] 指摘を受けて、自分で身だしなみを整える。	[128] 自分で気づいて身だしなみを整える。	
	TPO		[129] 季節や気温、行事に応じた服装に慣れる。	[130] 季節や気温に応じて、声かけを受けて衣類を調節する。	[131] TPOに応じて自分で服装を選ぶ。	

領域	中項目	小項目	T1	T2	T3	安全
安全	危険防止	危険な遊び	[132] 小さな物や硬貨等を口に入れない。	[133] 物を投げたり、高いところにのぼったりしない。	[134] 危ない遊びを自分から回避する。	
		危険物	[135] 火や刃物にむやみに触れない。	[136] 火や刃物を大人と一緒に安全に扱う。	[137] 自分で気を付けて火や刃物を安全に扱う。	
		危険回避	[138] 勝手にどこかに行ったりしない。	[139] 大人に行き先を告げて外出する。	[140] 状況に応じて危険を回避し、危険な場所や状況を大人に知らせる。	
	交通安全	歩行	[141] 大人と一緒に歩く。車道に飛び出さない。信号や標識に従う。	[142] 歩行者用の信号や踏切の警報器の意味を知る。自転車や自動車に気を付けながら歩く。	[143] 道路を渡るときは左右を確認し、信号や横断歩道、踏切の警報器、標識など自分で安全を確認しながら自力で登下校できる。	
	避難訓練		[144] 教師の指示に従って、教師と一緒に避難する。	[145] 教師の指示に従って、友だちと一緒に避難する。	[146] 「火事」「地震」「避難」などの区別がわかり、自分で安全な体勢をとって、教師の指示に従って集団で避難する。	
	防災		[147] 災害や事故、地域の施設設備について知る。授業で取り扱う防災用品や防災食を受け入れる。	[148] 危険な場所に気づく。授業で取り扱う防災用品や防災食に慣れる。	[149] 地域の避難場所がわかり自発的に移動する。防災用品や防災食の重要性がわかり行動に移す。	

領域	中項目	T1		T2	T3		日 課
日 課	日課	[150] 1つ1つの活動で「はじまり」「おわり」がわかる。	[151] 食事、排泄、着替え等の決まった流れがわかる。	[152] 次に何をするのかがわかり、できるだけ一人で日課に沿って行動する（1日の流れの理解）。	[153] 都合により日課が変更になっても納得できる。		
	予定	[154] 下校後の予定がわかる。		[155] 翌日の予定がわかる。	[156] 1週間程度の予定がわかり、カレンダーや予定表を見て、行事等に従って行動する。	[157] 1か月程度の予定がわかり、行事や約束等を自分で管理、調整できる。	

領域	中項目	T1		T2	T3		遊び
遊び	一人遊び	[158] 身体遊び（自分の身体を動かしたり、ものの感触や感覚刺激を味わったりして遊ぶ）		[159] 対象遊び（素材の変化や道具の働きに気づいて、意図的に動きかけながら遊ぶ）		[160] 役割演技遊び	
	社会的遊び	[161] 何にも専念していない（周りに何の興味も示さず、ただ自分の身体にかかわる遊びだけをする）	[162] 傍観（他児が遊ぶのを見ている）	[163] ひとり遊び	[164] 平行遊び（他児のそばで同じような遊びをするが関わり合わない）	[165] 連合遊び（他の子どもと玩具のやりとりをして遊ぶ）	[166] 組織的遊びまたは協同遊び（共通の目標に向けて仲間関係が組織され、それぞれが役割を持って遊ぶ）
	遊びの分類	機能遊び		[168] 感覚遊び（ものをなめる、音を聞く、物に触ってみるというように感覚器官を使用する遊び）		[169] 運動遊び（紙を破る、自転車に乗るのよう運動機能が発達するとあらわれる）	[170] 象徴遊び：想像遊び：ごっこ遊び（ままごとや怪獣ごっこのように外界の事象を模倣することに喜びを感じる）

領域	小項目	T1	T2	T3	手 伝 い ・ 仕 事
手 伝 い ・ 仕 事	手伝い	[172] 教師と一緒に、配布や運搬などの簡単な手伝いや仕事をする。	[173] 教師の支援を受けながら、意欲を持って、できるだけ自分で配布や運搬などの簡単な手伝いをする。	[174] 責任を持って、日常生活の手伝いや仕事を進んでする。	
	整理整頓	[175] 教師の支援を受けながら、自分のロッカーやかばんなどに用具を収納する。	[176] できるだけ自分で、自分の机やロッカーの中を整理する。	[177] 自分の物だけでなく、友だちが使った物や学級の備品を整理する。	
	戸締り	[178] 扉や窓の開閉を繰り返しながら、開閉に慣れる。	[179] 扉や窓の開閉と施錠方法を知り、教師の声かけで施錠する。	[180] 扉や窓の開閉、鍵の開け閉めが、いつ、どのようなときに必要なのかを理解する。	
	掃除	[181] ごみをごみ箱に入れるような簡単なことを習慣にしている。	[182] できるだけ自分で、任された場所を簡単に掃除する。	[183] それぞれの場所に適した掃除の方法や手順、用具の使い方等を身に着ける。	
	準備や片付け	[184] 教師と一緒に準備したり、片付けたりする。	[185] 教師や友達に促されて、決まった場所に片付ける。大きな物は友達と一緒に運んで準備したり片付けたりする。	[186] 自分から進んで必要な物を準備したり、周囲にある道具を片付けたりする。	

C 体育<基礎的運動スキル>

項目			発達段階I		発達段階II		発達段階III		発達段階IV		発達段階V		発達段階VI		基礎的運動スキル ①		
移動運動	基礎(单一要素)	歩く	[981] 教師と手をつないで歩く。	[982] 繩やテープの上を歩く。	[983] 急いで歩く。	[985] 直線上や曲線上を歩く。	[986] 一列に並んで歩く。	[988] 直線上を後方に歩く。	[992] 後ろ歩き、横歩きをする。	[993] 速度や方向を変えて歩く。							
		走る	[994] 教師が方向や速さを加減しながら、教師の言葉かけに合わせて一定の時間や距離と一緒にゆっくり走ったり早く走ったりする。	[995] 無理のない速さで続けてかけ足をする。	[996] 無理のない速さ(一定の速度)でかけ足を3~4分続ける。	[1000] 安定して走る(無理のない速さでかけ足を3~4分続ける、短距離を全力で走る)。	[1001] 物を持ったり抱いたりして走る。	[1002] 腕の振りが見られ走るスピードが増す。	[1003] 足の歩幅と腕の振りが増し、成人に近いフォームになる。								
	跳ぶ(両足)	[1004] 教師の介助を受けて、その場で上方や前方に跳ぶ。	[1005] 教師の言葉かけなどでタイミングを計りながら、一人で片足や両足で連続して上方や前方に跳ぶ。	[1006] 両足でびょんびょん跳ぶ。	[1009] 両足をそろえて前に跳ぶ(60cmまで)。	[1012] ケンパー跳びで連続して前方に進む。	[1014] 両足をそろえて距離を跳ぶ(90cmまで)。	[1016] 膝を曲げる予備動作から腕を使った立幅跳び(90cm以上)。									
		跳ぶ(片足)		[1007] その場で3回程度、片足跳びをする	[1011] 片足けんけんをする。		[1015] 5~10回程度、片足けんけんをする。	[1017] 10回を超えて自分が向かいたい方向へ片足けんけんをする。									
	組合わせ(複合要素)	のぼる	[1018] 静止しているものをまたぐ。	[1019] 低い台を上り下りをする。	[1020] 二足一段で階段を上り下りする。	[1021] 一足一段で階段をあがる。											
操作運動	ギャロップスキップ								[1022] スキップの形態はできている(ギャロップ)。	[1023] リズムよくスキップできる。							
	推進性	転がす投げる		[1024] 手下で投転がす。	[1025] 下手で投げる。	[1026] 両手で頭越しに投げる。	[1027] 片手で投げる。	[1028] 片手で投げるとき、投げる側が同じ足が前に出る。	[1029] 腕を後ろに引き、投げる側と逆側の足を踏み出して投げる。								
		跳る		[1030] 足で押し出す。	[1031] 静止した状態で跳る。	[1032] 下腿部を後ろに曲げて跳る。	[1033] 脚の前後の振りが大きくなる。	[1034] 脚と対立した腕の振りが見られ、安定して跳る。									
	弾ませる	打つ		[1035] 物に対して垂直に打つ。	[1036] 物に対して水平に打つ。			[1037] 後足から前足に体重移動し、ボールを水平に打つ。									
		捕る	[321] 回内(手を内側に回す動き)	[1039]両手を前に出して構える。	[1040]ボールを止める。	[1041]胸を使って、ボールを抱え込む。	[1042]弾むボールを捕まえる。	[1043]小さいボールを手で受ける。	[1044]腕の動作を使って、手でしっかり受けれる。								
吸収性	[322] 回外(手を外側回す動き)													②に続く↓			

項目		発達段階Ⅰ	発達段階Ⅱ		発達段階Ⅲ	発達段階Ⅳ	発達段階Ⅴ	発達段階Ⅵ	C 基 礎 的 運 動 ス キ ル ②	
姿勢制御運動（安定運動）	体軸	体軸	[1045] 四つ這い、高這い、熊歩き	[1046] 手押し車						
		腕	[1047] 腕を前や上に伸ばしたり、振ったり回したりする。	[1048] 腕の曲げ伸ばしをする。		[1049] 腕の前後回旋をする。	[1050] 腕の前、上下、左右突き、腕の内外回旋をする。			
		足	[1051] 足を前後左右に開く。しゃがんだり立つたりする。			[1052] ひざの屈伸をする。	[1053] 開脚での膝屈伸をしたり、脚を前後・横に振り上げる。			
		全身	[1054] 背伸びをする。	[1055] うつ伏せで状態を反らす。	[1056] 長座位で体の前屈をする。	[1057] 開脚で前後屈、側屈、ねん転をする。	[1058] 体の前後屈、側屈、ねん点、回旋をする。			
	動的姿勢	平衡性		[1059] 低い平均台の上に立つ。	[1060] 低い平均台を渡り歩く。	[1061] 平均台をすり足で歩く。	[1062] 平均台を歩く。	[1063] 平均台を後ろ向きにすり足で歩く。	[1064] 平均台を後ろ向きに歩く。	
		他者との力比べ		[1065] 繩を引きあう。			[1066] 押し合い相撲で、重心を低くして、相手を押したり踏ん張ったりする。	[1067] 友だちと手をつないだり肩を組んだり、背中を合わせたりして立ったり座ったりする。		
	静的姿勢	回転				[1068] ゆりかご、前転がり、後ろ転がりをする。	[1069] 立った姿勢からリズムよく跳ねながら、右回り・左回りに回転をする。			
		ぶらさがり		[1072] ぶらさがりをして遊ぶ。			[1070] 手を上に上げ体をまっすぐに伸ばした状態で連続してまっすぐに横転がりをする。			
		片足立ち	[1074] 片足をあげる。	[1075] 教師が支えると、数秒間片足立ちができる。	[1076] 片足で2~3秒立つ。	[1077] 閉眼的片足立ちを2~3秒行う。	[1078] 片足で5秒以上立つ。	[1079] 片足立ちのまま、体をかたむけても倒れないでいられる。		
	模倣	動作模倣	[267] 拍手、手を振る等、簡単な動作を模倣する		[268] 「頭・肩・ひざ・ぽん」のように身体に接触する手遊び	[269]両手をあげる、両足を広げる左右対称の動作模倣をする	[270]両手をあげて両足を広げるといった、連続した動作を模倣する	[271] 変身ポーズのような正中線を超える動作模倣をする		
		操作模倣	[273] マラカスを振る、太鼓を手で叩く、二つのものを打ち合わせる等、機物を使った簡単な模倣をする	[274] べんとなぐり書き、ばちで叩いて音を出す等、機能的な道具の操作模倣をする	[275] 生活再現的な機能的道具の操作模倣をする（例：コップで飲むまね）			[276] 折り紙を半分に折る、粘土を丸めるなど、などの操作モデルの見本をみて活動をする		

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	体 つ く り
体ほぐしの運動	体つくり運動遊び	[733] ○日常生活の基本的な身体活動を繰り返す： 歩く、走る、転がる、はう、跳ぶ、またぐ、バランスをとる、座る、しゃがむ、階段昇降など ○簡単な手足の運動：手足を十分に曲げる、脚を前後左右に聞く、腕を振つたり回したりする	[734] ・伸び伸びとした動作で運動を行なう ・リズムに乗って運動を行なう ・歩いたり走ったりする運動を行なう	[735] ・伸び伸びとした動作で用具などを用いた運動を行なう ・リズムに乗って弾むような動作で運動を行なう ・動作や人數などの条件を整えて、歩いたり走ったりする ・伝承遊びや集団による運動を行なう	[736] ・伸び伸びとした動作で用具などを用いた運動を行なう ・リズムに乗って心が弾むような動作で運動を行なう ・動作や人數などの条件を変えて、歩いたり走ったりする運動を行なう ・伝承遊びや集団による運動を行なう	[737] ・伸び伸びとした動作で用具などを用いた運動を行なう ・ペアになって互いの心や体の状態に気づき合いながら体を揺らすなどの運動を行なう ・動作や人數などの条件を変えて、歩いたり走ったりする運動を行なう ・伝承遊びや集団による運動を行なう	
多様な動きをつくる運動		[738] 体のバランスをとったり、体を移動したり、用具を操作したりするなどの運動を行なう。 <片足> ・片足を軸にして、右回り、左回りに回転する ・片足立ちでバランスを保つ運動をする <繩> ・長縄での大波小波をする <重心> ・縄を引きながら力比べをする <持つ・運ぶ> ・大きさや重さの異なるボールを両手でつかんで、持ち上げたり、下ろしたりする	[739] 体のバランスをとったり、移動したり、用具を操作したり、力試しをするとともに、それらを組合わせる運動を行なう。 <跳ぶ> ・立った姿勢からリズムよく跳ねながら、右回り左回りに回転などをする <重心> ・押し合いの相撲で重心を低くして相手を押したり、相手から押されないように踏ん張ったりする ・友達と手をつないだり肩を組んだり背中を合わせたりして、立ったり座ったりする <持つ、運ぶ> ・ボールや棒など大きさや種類の異なる用具を片手や両手で投げたり捕つたりする ・友達をおんぶする				
体つくり運動遊び／体つくり運動	[313] 両手を身体の中心に持ってくる 例：自分の手を自分で触れさせる、身体の中心で両手を合わせる [314] 両手を互いにからませる 例：手のひらを開くようにする、両手を互いにからませる動きを促す [315] 両手でのものを持つ 例：視野に入ったものを両手で触る、押す、持つ、引くなどの動きを促す	[316] 6ヶ月：ものを持ち替える 例：手のひらを開く動作、正中線を越える手の動き、肘や手首の回転を促す [317] 7ヶ月：片手でものを持ちながら、もう片方の手でものを持つ（両手の協調した動きができるようになる） 例：左右別々にものを持たせる活動					
体の動きを高める運動	[319] 手のひら側への屈曲 屈曲が極端な場合には、手首の柔軟性を高め、手の甲側への背屈へと導く。 [320] 手の甲側への背屈 背屈が極端な場合には、手首の柔軟性を高め、手の甲側への適切な角度での背屈へと導く。 例：大きな箱に小さな箱を入れる、蓋のあるタッパ、爪状のロックのあるケースなどの開閉、狭い仕切りのあるケースからの取り出し、ボールペンのねじ蓋・キャップ・芯の出し入れ		[740] 自分の課題を見つけ、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行なう ・友達と手をつないだり背中合わせになつたりしながら立ったり座ったりする ・平均台など少し高さのある器具の上を動物歩きや横歩き等で渡る ・物や用具の間を速さ、方向を変えて這つたり、歩いたり、走つたりする ・両足で跳び、手足の動作を伴って全身じょんけんをする ・人数を変えて綱引きをする ・登り棒や肋木をしっかりと握り、数を数えながら一定の時間ぶら下がる ・ラジオ体操や学校や地域で親しまれている簡単なリズムに合わせて行う体操をする	[741] 体力の向上をねらいとして、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための動きを行なう ・体の各部位を大きく広げたり曲げたりする姿勢を維持する ・ゴムひもを張りめぐらせて作った空間や、棒の下や輪の中をくぐり抜ける ・用具などを等間隔に並べた走路や跳び箱や平均台などの器具で作った段差のある走路をリズミカルに走つたり跳んだりする ・用具をコントロールしながら投げる、捕る、回す、転がすなどの操作をする ・様々な姿勢での腕立て伏臥屈伸をする ・全身に力を込めて登り棒に捕まつたり、肋木や雲梯にぶら下がつたりする ・短なわ、長なわを使っての跳躍やエアロビクスなどの全身運動を続ける			

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	器械 ・ 器 具
器械 ・ 器 械 具 ・ 器 具 を 器 使 つ て 使 の つ 運 動 の ／ 遊 器 び 機 ／ 運 動	固定施設 平均台	[742] ジャングルジム、ブランコ、トランポリンなどいろいろな動きを経験する。	[743] ・ジャンピングボーダやトランポリンで上下に跳ねる。 ・低い平均台で渡り歩きや飛び下りをする	[744] 細い平均台を前向きに歩いたり、後ろ向きに歩いたりする。	[745] 平均台の上で後ろに方向転換。 平均台の上で片足立ちでポーズをとる。		
	マット	[747] 背中や腹などをつけて転がったり移動したりして遊ぶ。	[748] マットの上で、様々な方向に転がりをする。 ・ゆりかご ・前転がり ・後ろ転がり	[749] 基本的な回転技 ・連続横転がり ・前転	[750] 基本的な回転技と発展技、それらの技を繰り返したり、組み合わせたりする。 ・連続前転 ・後転 ・場を使った開脚前転	[751] 基本的な回転技と倒立技、それらの技を繰り返したり、組み合わせたりする。 ・連続後転 ・開脚後転 ・壁倒立	
	鉄棒	[752] 低鉄棒を使ってぶら下がりをして遊ぶ。	[753] 跳び上がりや跳び下りをする。	[754] 鉄棒にぶら下がって体を前後に振る。 低鉄棒に跳び上がって前回り下りをする。	[755] 低鉄棒での足抜き回り。 高鉄棒にぶら下がって体を前後に振って跳ぶ。	[756] 補助逆上がり。 鉄棒上の支持姿勢から回転して着地までスムーズに、前回り下りをする。	
	飛び箱	[757] よじ登ったり、低い位置から飛び降りたりして遊ぶ。	[758] またぎ乗りやまたぎ下りをする。	[759] 両手を着いて、跳び乗り、跳び下りをする。	[760] 腕立て横飛び越しをする。	[761] 開脚飛び。	

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	走 ・ 跳
走・跳の運動の遊び／運動	走る運動	[762] ・教師が方向や速さを加減しながら、教師の言葉かけのリズムに合わせて一定の時間や距離を一緒にゆっくり走ったり、早く走ったりする。	[763] ・短い距離（30m）のかけっこをする。 ・緩やかなカーブを走る。 ・折り返しのリレーをする。 ・教師の声かけや言葉かけに合わせ一定の速度で走る。	[764] ・短距離（30~50m程度）を全力で走る。 ・ジグザグ、S字のレン、リレーなどで走る。 ・3~4分程度の時間を一定の速さでゆっくり走る。	[765] ・距離を決めて調子よく走る、全力疾走をする、速度や方向を変えて走る。 ・30~60m程度の短距離走をする。 ・いろいろな走り出しの姿勢から素早く走り始める（座った状態や後ろ向きの状態）。 ・リレーにおいて、走る順番を守ったり、走りながらバトンパスをしたりする。	[766] ・走る距離やルールを定めて競争したり、目標を目指しながら一定の距離を全力で走ったりする。 ・50~80m程度の短距離走をする。 ・リレーにおいて、約束を守ったり、走りながらバトンパスをしたりする。	短距離走・リレー
走・跳の運動の遊び／運動	陸上運動	[769] ・教師の支援に合わせて、その場で上方に横足や片足で跳んだり、前方に跳んだりする。	[770] ・教師の言葉かけなどでタイミングを計りながら、一人で片足や両足で連続して上方に跳んだり前方に跳んだりする。 ・低い障害物等を使って、歩いたり走ったりしながらまたいだり飛び越えたりする。	[771] ・ケンパー跳びで片足や両足で連続して前方に跳ぶ。 ・低い障害物を使って、助走をつけて勢いよく飛び越える。	[772] 幅広い障害物や小型ハードルを自分で合ったりズムで走り越す。	[768] 一定の時間や距離を決めて、個々のタイムなどの目標を目指しながら走り続ける。	長距離走
走・跳の運動の遊び／運動	跳ぶ運動					[773] 幅広い障害物や小型ハードルをリズミカルに走り越える。	小型ハードル走（障害物走）
走・跳の運動の遊び／運動	跳ぶ運動					[774] ・ゴム跳びなどで助走をつけて片足で地面を蹴って上方に跳ぶ。 ・助走をつけて片足でしっかりと地面を蹴って遠くに跳ぶ。	跳ぶ運動

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	水遊び・ボール・武道・ダンス
水遊び／水の中での運動	水遊び	水遊び	水の中での運動	水の中での運動	水泳運動	水泳運動	
		[775] ・じょうろを使って遊ぶ。 ・遊具を浮かべたり沈めたりして遊ぶ。 ・水をくつたりかけたりして遊ぶ。 ・水温の違いによって、温かい、冷たいと感じながら遊ぶ。	[776] ひざぐらいまでの水中を水の抵抗を感じながら歩いたり、走ったりして遊んだり、顔や頭を水の中に入れていろいろ遊びをしたりする。	[777] 水の中で目を開いたり鼻から息を吐いたりして、浮き方、もぐり方に慣れたり、補助具などにつかまってばた足などをしたりする。	[778] ・浮く遊び（くらげ浮き、伏し浮き、大の字浮き等） ・伸び ・もぐる運動 ・補助具を使っての泳ぎ（ばた足泳ぎ、かえる泳ぎなど）	[779] ・補助具を使って呼吸をしながらの泳ぎ ・補助具を使ったクロールや平泳ぎのストローク	
ボール遊び／ボールを使った運動／球技	ボール遊び	ボールを使った基本的な運動やゲーム	ボールを使った基本的な運動やゲーム	ボールを使った基本的な運動やゲーム	球技	球技	
		[780] ・いろいろなボールを転がす、投げる、蹴る、捕るなど ・ボールを転がしたり、投げたりしながら行う的当て遊び	[781] ・いろいろなボールで、つく、転がす、投げる、当てる、捕る、打つ、蹴る、止めるなどの簡単なボール操作 ・いろいろなボールを投げたり捕つたり、蹴つたり止めたりする運動 ・ボールを転がしたり、投げたり、蹴つたりしながら行う的当てゲーム ・ボールを教師や友達に手渡したり投げたりするボール送りゲーム	[782] ・友だちとのキャッチボール ・ボールを打つ ・友達と蹴つたり止めたりするパスやシュート ・ボールを手や足でドリブル ・的当てゲームを発展したシュートゲーム ・ボールを転がしたり投げたりする円形ドッジボール ・攻めがボールを手で打つたり蹴つたりして行うベースボール型ゲーム	[783] ・基本的なボール操作（シュートバス、バス返球、打球捕球など攻防のためにボールを操作する技能） ・ボールを持たないときの動き（空間、ボールの落下点、目標に走りこむなどボール操作に至るための動きや守備の動きに関する技能） ・簡易化されたゲーム（生徒が取り組みやすいようにルールや形式を修正し、学習課題を追求しやすいように工夫したゲーム）	[784] ・基本的な技能（ゴール型、ネット型、ベースボール型などのボール操作及びボールを持たないときの動き）を、身に付けて、簡易化されたゲームを行う。	
友だちを追いかけたり逃げたりするゲーム		[785] ・一人鬼 ・手つなぎ鬼 ・子増やし鬼	[786] しっぽ取りゲーム				
武道					柔道・剣道・相撲	柔道・剣道・相撲	
					[787] ・武道の行い方や伝統的な考え方がわかる ・基本動作や基本となる技を用いて簡単な攻防を展開する	[788] ・武道の行い方や伝統的な考え方を理解する ・基本動作や技のバリエーションを増やし、簡単な攻防を展開する	
表現遊び／表現運動／ダンス	表現遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス	
		[789] 音楽の流れている場所で体を動かす。 ※音楽科の1段階の内容と関連を図る。	[790] 題材と動き：動物や乗り物など身近で特徴が捉えやすい動きを多く含む題材 リズムと動き：軽快なリズムの曲や日常的に親しんでいる曲	[791] 題材と動き：家事やスポーツなど身近な生活の中から特徴が捉えやすく多様な感じの動きを含む題材、空や海や風など想像が広がる題材 リズムと動き：ロックやサンバなど弾んで踊れる軽快なリズムの曲	[792] 身近な音楽や軽快なリズムに乗って全身で弾んで踊ったり、友達と自由に踊りあって楽しく踊ったり、簡単なフォークダンス（ジエンカ、ボレカ、タタコチカ等）をしたりする。	[793] 日本の民謡や外国の踊りの基本的なステップや動きを身に付け、それぞれのダンスの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせてみんなで楽しく踊って交流できる。	

C 保健

C
保
健

領域	T1	T2	T3	T4	T5
保健	健康な生活に必要な事柄 [794] ○教師と一緒に健康な生活に必要な事柄を習慣化していく ・うがいをしたり、うがいに関心をもつたりする ・汗をぬぐったりする ・手洗いを習慣とする ・必要に応じて教師と一緒に保健室に行き、保健室の雰囲気に慣れる	健康な生活に必要な事柄 [795] ○教師の支援を受けながら、自分の健康な生活中に必要な事柄に慣れる ・手の汚れの状態を見て手洗いができる ・身体計測による体重や身長の変化に興味や関心を持つ ・身体測定や健康診断などの場の雰囲気に慣れ、必要な態度を身に付ける	健康な生活に必要な事柄 [796] ○健康や身体の変化に気づき、健康な生活中に必要な事柄に関する基本的な知識及び技能を身に付ける。 ・発熱や咳、排便の状態などを自分で意識する ・身体測定の結果や身体の変化などから、自分の身体の成長に関心を持つ ・病気やけがのときに落ち着いて簡単な手当てを受ける ・むし歯の予防	健康・安全に関する事項 [797] ○体の発育、発達やけがの防止、病気の予防などの仕方がわかり、基本的な知識及び技能を身に付ける。 ・身体測定の結果や性徴を通して体の発育に関心を持つ ・身体各部の働きを知る ・けがの防止のために運動の前後に体操をする ・病気の予防のために生活に必要な習慣や態度を身に付ける ・身体及び身辺の清潔に気を付ける ・寒暖に応じて着衣を調節する ・体調を考えて適度な運動をする ・栄養が偏らないようにバランスのとれた食事をし、食べ過ぎないようにする	健康・安全に関する事項 [798] ○体の発育、発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付ける。 ・中学部Ⅰ段階の内容を自ら行動できる ○自分やグループの健康、安全についての課題を見つけて、その解決のために友達と考えたり工夫したりしたことを他者に伝える ・一日の生活リズムを整え、運動、食事、休養及び睡眠などについて自分や友達の課題を一緒に考える ・部屋の明るさの調節や換気などの生活環境について考える ・施設や用具の安全な使い方を知り、けがのないように気をつける
	[799] ・自分の体調の悪さやけがに気づいて、教師に何らかの手段で伝える方法を身に付ける	[800] ・体調の悪いときやけがをして痛みを感じていることを教師等に知らせる ・朝の会で体調を何らかの手段を使って発表する	[801] ・治療や休養が必要な場合は知らせる ・自分や友達のけがや体調の変化を教師等に知らせる	[802] ・けがや病気の時に、教師や友達に伝える	[803] ・友達の体調の変化やけがを教師に伝える

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	国語（読む）
読む	言我語が文国化の	[323] 昔話などについて読み聞かせを聞くなどして親しむ。	[324] 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむ。	[325] 昔話や神話、伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむ。	[326] 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむ。	[327] 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむ。	
	知・技 読書	[328] 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつ。 ○いろいろな絵本など…紙芝居、ペーパーサート、写真、映像教材 ○内容…児童が経験している生活上の出来事を題材にしたもの、物語の展開が簡単なもの、同じことが繰り返されるもの	[329] 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつ。 ○いろいろな絵本や図鑑など…絵本や図鑑以外にも掛け図などの資料も含む。	[330] 読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知る（読書を通して、様々な知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることのできる力の育成を目指し、図書資料には様々な種類があることを知る）。	[331] 読書に親しみ、内容や記し方によって物語や詩、紀行文といった種類に分類できることを知る。	[332] 幅広く読書に楽しみ、本にはいろいろな種類があることを知る。 ○いろいろな種類…物語、昔話、絵本、科学的な読み物、図鑑 ※学校図書館などの施設の利用方法も身に付ける。	
	構造と内容の把握	[333] 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や事柄、生き物などに気づき、指さしをしたり、視線や意識を向けたりする。	[334] 教師と一緒によく親しんでいる絵本などを見て、場面の様子や登場人物の行動などについてイメージしたことを言葉や動作で表そうとする。	[335] 絵本や易しい読み物（3つから10くらいの場面や段落で構成された読み物）などを読み、挿絵と結びつけて、登場人物の行動や場面の様子などをイメージする。	[336] 挿絵の少ない簡単な物語や紀行文、詩、短い劇の脚本などを読み、場面の様子が変化したり、登場人物の行動や心情が変化したりしていくことを把握しながら読む。	[337] 様々な読み物（物語、詩、短い劇の脚本、紀行文、記録や報道の文章）を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像する。	
思・判・表	構造と内容の把握	[338] 展開が簡単な話の絵本などを見聞きして、次の場面を期待したり、音やリズム、登場人物の動きなどを模倣したりする。	[339] 教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過の大体を捉える（例：前後で、登場人物の様子や行動の違いに気づいたり、話の内容を読み取つたりする）。	[340] 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉える（例：挿絵を並べ替える、簡単な小見出しをつける）。	[341] 時間を表す言葉や語句などを基に、文や文章の時間的な前後関係について大体を捉える（例：生活中に必要なものの使用法や料理法の説明書を読み、使い方や作り方を捉える）。	[342] 語と語や文と文とのつながりを助詞や接続する語句に注意しながら読み、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉える。	
	構造と内容の把握 考え成の		[343] 絵本などを見て、好きな場面を教師や友達に伝えたり、好きな言葉を模倣したりする。	[344] 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすることにより、読みの世界を広げる。	[345] 文章を読んで分かったことや印象や内容に対する思いを自分なりの言葉で表現する。	[346] 読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づく。	
	構造と内容の把握 読み	[347] 場所や動作を表す絵や写真、日常生活で見かけるシンボルマーク、簡単な記号（例：○×→）を感覚的に識別し、意味に従って行動したり、自分の思いや要求を表すために選択したりする。	[348] 日常生活でよく使われている表示（シンボルマークや標識）に示されている図柄や色などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に沿った行動をしたりする。	[349] 日常生活で必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりする。	[350] 日常生活で必要な語句や文章などを読み、行動する（例：校内の各教室の名前、交通機関や乗り場の表示、安全や危険、指示を知らせる標識や案内板、看板、ポスター、広告、生活中に必要なものの使用法や簡単な料理法の説明書、納品書、請求書、領収書、興味のある新聞記事や雑誌、電子メール）。	[351] 実生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り行動する（例：様々な説明書や注意書き）。	
	文字学習（読み）	[352] ・ロゴやマーク、キャラクターへの関心 ・図形弁別	[353] ・文字弁別 1文字チップのマッチング→文字単語カードのマッチング	[354] ひらがなを読めるようになる段階 ①絵と文字単語のマッチング ②質問して単語を選択 ③単語を読む ④絵の名称の単語づくり ⑤（必要な文字のみ→不要な文字を加える→似た文字を使う）			

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	国語 (書く)
書く (書写)	筆記具の選定	[355] いろいろな筆記具を用いることで、線などが書けることに気づいたり書いたものに何らかの意味付けをしたりする。 ○いろいろな筆記具…クレヨン、チョーク、筆、はげ、鉛筆、ボールペン、水性・油性ペン	[356] いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむ。	[357] 教師の助言の下に目的に合った筆記具を選び、書く。 ○目的に合った筆記具…書いたものを読む相手、書き表す素材やマス、行の大きさ、書く量などに合った筆記具。			
	マスの大きさ	[358] マスの大きさ 5cm四方 (5×5)	[359] マスの大きさ 2cm四方 (2×2)				
知・技	姿勢・筆記具の持ち方と文字の形	[360] 筆記具の持ち方や正しい姿勢で書くことを知る。	[361] 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付ける。	[362] 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書く。	[363] ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書く。 ・点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書く。 ○点画…横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点	[364] ・点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に沿って丁寧に書く。 ・漢字や平仮名の大きさ、配列に注意して書く。	
	筆記具の持ち方の段階	[365] 第1段階 手掌回外握り・手掌回内握り すべての指でしっかり握りしちゃいる状態 第2段階 手指回内握り 親指や人差し指が伸びた状態で持ち、小指や薬指で握り支えている状態	[366] 第3段階 側方つまみ・静的三指握り 親指、人差し指、中指の3本で持つが、指の屈伸がなく伸びている状態	[367] 第4段階 動的三指握り 親指、人差し指、中指の3本で正しく持つ。指先の屈伸の動きだけで操作できる状態。			
	文字学習 (書き)	[368] (1) 棒を使って图形をつくる。 ①1本の棒を使って縦、横 ②2本の棒を使って十字 ③4本の棒を使って四角 ④1本の棒を使って斜め ⑤2本の棒を使ってクロス ⑥3本の棒を使って三角 (2) 鉛筆で图形を描く ・難易度①横線→②縦線→③十字→④円 ・スマールステップ①なぞり書き→②誘導線+ドット→③ドット→④模写	[369] (3) ひらがななのなぞり書き ①縦線と横線で構成されている文字 (い・け・こ・に・た・り) ②画数が少なく曲線のある文字 (う・お・か・き・さ・し・せ・ち・つ・の・も・ら) ③画数が多く回転のある文字 (す・な・は・ふ・ほ・ま・み・む・や・よ) ④線が屈曲し、斜めの要素のある文字 (く・て・と・ひ・へ・ゆ・る・ろ・を) ⑤複雑な要素のある文字 (あ・え・そ・ぬ・ね・め・れ・わ・ん) (4) 鉛筆で图形を描く ・難易度 ①四角→②斜め線→③クロス→④三角 ・スマールステップ ①なぞり書き→②誘導線+ドット→③ドット→④模写	[370] (5) ひらがなの模写 上記①～⑤の難易度順にすすめる ※文字の形が崩れる場合 スマールステップ①横線・縦線をなぞる→②横線・縦線で構成されたものをなぞる→③斜め線をなぞる→④円をなぞる (大きい円から小さい円へ) →⑤波線をなぞる (大きい波から小さい波へ) →⑥うずまきをなぞる (大きいうずまきから小さいうずまきへ)			
思・判・表	題材の設定 情報の収集 内容の検討	[371] 身近な人の開わりや出来事について、自分が見聞きしたことや感じたことなどを具体物や絵、写真などを手がかりにして想起したり、相手に伝えたいことを考えたりする。	[372] 絵や写真を手がかりにして、自分が経験したことの中から伝えたいことを思い浮かべたり選んだりする。	[373] 見聞きしたり経験したりしたことについて書きたいことを見つけ、題材に必要な事柄を集めること (ノートやカードに書き出したり、写真や絵などの資料を集めたりする)。	[374] 見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめる。	[375] 相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にする。	
	構成の検討	[376] 文字に興味を持ち (伝え合う手段として文字があることに気づき、教師が文字を書く様子を見ようしたり、身の回りにある様々な文字に指差しをしたりする) 、書こうとする (教師等が文字を書く様子を模倣して、自分なりの書き方で文字に見立てた形を書く) 。	[377] 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書けるようになった文字をマスの中に書いたりする。	[378] 見聞きしたり経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考える。	[379] 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。	[380] 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係に注意して文章を構成する。	
	記述			[381] 見聞きしたり経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書く。	[382] 文の構成、語句の使い方に気を付けて書く。	[383] 事実と自分の考えとの違いが相手に伝わるように書き表し方 (特に文末表現) を工夫する。	
	推敲			[384] 書いた語句や文を読み、間違いを正す (例: 事柄の順序、語と語や文と文との続き方、特殊音節の表記や助詞の使い方などを) 。	[385] 自分が書いたものを読み返し、間違いを正す。	[386] 文章を読み返す習慣を身に付け、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたり、表記の仕方や使い方に注意する。	
	共有			[387] 文などに対して感じたことを伝える。	[388] 文章に対する関心を持ち、伝え合う。	[389] 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の良いところを見つける。	

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	国語（聞く）
聞くこと	言葉の働き	[1184]・関わりの中でことばかけに注意を向ける。	[1185]・生活の中で関わる様々な人の話しことばを聞きなれる。	[1186]・言葉が物事の内容、気持ちや要求を表していることを知る。	[1187]・言葉には経験したこととを伝える働きがあることを知る。	[1188]・言葉には、考えたこと思ったことを伝える働きがあることを知る。	
	語彙	[1189]・言葉のもつ音やリズムに触れる。 ・身近な人との関わりで言葉を聞く、音声の高低や抑揚の違いによる意味の違いに触れる。	[1190]・身近で日常生活に必要な言葉、事物の名前を理解する。 ・身近な動きのことばや様子を表すことばを理解する。 ・「座るもの」「食べるもの」など身近なものの用途を理解する。	[1191]・なかもの言葉「やさい」「どうぶつ」「くだもの」など、意味によるまとまりを理解する。	[1192]・「雨一飴」「橋一はし」など、アクセントによる意味の違いや「熱い一暑い」「早い一速い」など、漢字による意味の違いのある言葉を理解する。	[1193]・様子や行動、気持ちや性格を表す語句などの語彙を身につける。	
		[1230]「靴は靴箱にいれる」など、日常生活のなかで言葉と事物を結びつける。	[1231]色の名前を理解する。	[1232]関係の概念「大きいー小さい」「高いー低い」「深いー浅い」「厚いー薄い」などのことばを理解する。			
	文や文章		[1233]「大きいー小さい」など関係の概念を体験を通して理解する。				
				[1194]・主語と述語からなる文を理解する。 ・助詞「は・を・へ」の働きを知り、2語から3語で構成する文を理解する。	[1195]・文と文をつなぐつなぎの言葉「だから、しかし、それとも」等が含まれる文を理解する。	[1196]・修飾語の働きや「こそあど言葉」と係る言葉との関係を理解する。	
	情報と情報の関係 情報の整理			[1197]・出来事の順や流れを理解して聞く。	[1198]・「いつ」「だれが」「どこで」「なにを」を理解して聞く。	[1199]・自分の考えと相手の考えの同じところや違うところを見比べる。	
		[1200]・身近な人からの働きかけに注目する。	[1201]・「○○を～して」など簡単な指示を理解し行動する。 ・「○○を～に△△して」など3語程度のことばからなる指示を理解し、行動する。	[1202]・相手の話に聞く姿勢を示し、内容の大体を捉える。	[1203]・身近な人の話や簡単な放送などを聞き、簡単なメモを取りながら聞く、わからぬことを聞き返すことを通して、話の大体を捉える。	[1204]・身近な人の話や簡単な放送などを聞き、話している事柄の順序や要点をメモしたり、わからぬ点や確かめたい点を質問して話の大体を捉える。	
	内容の把握						
	話題の設定		[1205]・経験を通して、ことばと意味を結びつける。		[1206]・相手の話の内容や話し方などについて興味や関心を持って聞く。		

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	国語 (話す)
話すこと	話し言葉	[1207]・身近な人との関わりのなかで、表現したい気持ちを本人なりの方法で表現する。	[1208]・言葉を用いることで、自分が感じた気持ちや要求などが相手に伝わることがわかる。 ・感情や要求、挨拶や質問の言葉と意味を結びつける。	[1209]・相手に伝わるように姿勢を整え、口の動きを意識する。	[1210]・相手に内容を正確に伝えるために、発声や声量に注意しながら話す。	[1211]・内容が聞き手にはつきりと聞き取れる発声や発音、音声が明瞭に聞こえる速さや、声が届く音量などに注意して話す。	
		[1234] ・遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れる。 ・呼びかけに対する応答遊び。 ・擬声語や擬態語などを使った音まね・声まね遊び。 ・声や言葉を使った遊びや関わりなどを通して節をつけて歌つたり動作化したりするなどして、言葉の響きやリズムを体感する、楽しむ。			[1235]・普通の言葉と丁寧な言葉を、相手「友達や教師、家族」や場面「家と外」に応じて使い分ける。		
	言葉遣い						
	語彙		[1212]・状況や場面に応じて、物の名前や動きの言葉など、いろいろな種類の言葉を使う。	[1236] 大小や長短など関係の概念のことばを使う。		[1213]・様子や行動、気持ちや性格を表す語彙で表現する。	
				[1237] 位置（上下・横）、重軽、前後などの関係の概念のことばを使う。			
	情報と情報の関係			[1238] 経験したこと、先の出来事について、簡単なことばや文で伝える。	[1214]・出来事や経験した事を「いつ」「どこで」「だれが」「なにをした」など、内容を時間的な順序に気を付けて話す。	[1215]・事物の説明や経験を相手から聞いて、「なぜそう考えたか」の理由を説明に加えて、感想を伝える。	
						・情報を集める、発信する場合に、必要な語や語句を選ぶ。	
	情報の整理						
	我が国の言語文化					[1216]・生活に身近なことわざを知ったり、使ったりする。	
思・判・表	表現	[1217]・伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表現する。 ・表情や指さしなどの身振りで表現する。	[1218]・挨拶や、簡単な台詞など日常生活や遊びに必要な言葉を表現する。	[1219]・挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使う。 ・お店屋さんごっこなどの遊びを通じて、役割にあったことばを表現する。	[1220]・自己紹介や電話の受け答えなど、話す相手や場面に応じた言葉遣いを考えて話す。	[1221]・話し合いの時に、司会者、提案者、参加者の役割をとることができる。 ・司会者として互いの考え方の共通点や相違点を確認しながら、進行する。	
		[1239] ことばやことばの一部を模倣する。	[1240] 2つ以上の簡単なふり動作をつなげて表現する。	[1241] 見聞きしたことや経験したことなどを話したり、感じたことを表現する。			
		[1242] 問いかけに返事や、簡単な言葉で表現する。					
	話題の設定	[1243] コップやスプーンなどを使って簡単な1つのふり動作をする。 ・人形を寝かせる、スプーンで食べさせるなどのごっこ遊びをする。					
			[1222]・映像や写真を手掛けたりに体験したことと思い出し、自分の知っている言葉に当てはめたり、表そうとする。	[1223]・絵や写真を手掛けたりに、経験したこと振り返り、伝えたいことを考える。	[1224]・話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決める。	[1225]・相手に説明や報告をする、また、知りたいことを聞く、思いや考えを聞くなど、伝える目的に応じて内容や話題を考える。	
	内容の把握	[1226]・身近な人からの話しかけに関心をもち、見る、声を出す、簡単な言葉で表現する。		[1227]・相手の話に関心をもち、感じたことや考えたことを伝える。	[1228]・相手の話の内容から、感じたことや考えたことや伝え合うことを通して、自分の感想や考えをもつ。	[1229]・話す内容に、必要に応じて理由や事例を付け加えるなど、話す順序と内容を考える。	

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	数量の基礎
数量の基礎	具体的物の有無に関すること	[287] 注視・追視ができる ・光の変化に気づく（例：暗闇への反応） ・コントラストのはっきりしたもの（例：白黒の縞）に気づく ・30cm程度離れた対象を3秒程度注視する ・ゆっくり動く人や物を正中線まで注視する ・1m以上離れた人を注視する ・ゆっくり動く人や物を正中線を越えて追視する					
		[390] 具体物に気づいて指を差したり、つかもうしたり、自分で追つたりする。 例：目の前にある好きな玩具に手を伸ばす。					
		[391] 目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指差したりする。 例：友達や先生の名前を聞いてその人を指差す。 目の前にあるものを視線から外すと目で探す。 目の前で好きなものに布がかけられたときに布をとろうとす					
		[392] 対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉える。 例：音の鳴るボールが転がってきたときに手を伸ばす。 紐を引くと物が近づいてくることがわかる。 押すと光る玩具で遊ぶ。					
数量の基礎	ものとものとの対応	[393] 対応させてものを配る。 例：お盆や牛乳を一人に一つずつ配る。1つの穴に1つずつ棒を刺していく。例：ボタンとボタン穴が対応できる。					
		[394] 分割した絵カードを組合わせる。 例：分割した食べ物や乗り物の絵カードを組合わせる。					
		[395] 関連の深い絵カードを組み合わせる。 例：キリンとゾウ、ミカンとバナナの絵カードを組み合わせる。					
		[396] ものとものとを関連づけることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり表現したりする。					

領域	項目	T1	T2	数と計算①
数と計算①	数の不变性	[397] 示した具体物の色が違っても、数は変わらないことがわかる。	例：色の違うおはじきを比較する。	数と計算①
		[398] 示した具体物の形が違っても、数は変わらないことがわかる。	例：形の違うおはじきを比較する。	
		[399] 示した具体物の大きさが違っても、数は変わらないことがわかる。	例：大きさの違うおはじきを比較する。	
		[400] 示した具体物の置かれた位置が違っても、数は変わらないことがわかる。	例：並べられたおはじきとばらばらに置かれたおはじきを比較する。	
	具体物を数える	[401] ものの有無（ある、ない）に気付く。	例：お皿に入っているビー玉を1個ずつ別の容器に入れていくとお皿の中のビー玉がなくなることに気付く。	
		[402] 目の前の物（具体物）を、1個、2個、たくさん、で表す。	例：具体物を「1、2、たくさん」と数える。	
		[403] 言われた数詞どおりの具体物をとる。	例：複数のビー玉から「3こちょうどだい」と言われて3つのビー玉をとる。	
	数え方の発展			
			[404] 具体物と一对一応させて、数詞を言う。	
			[405] 最後に言った数詞が個数であることがわかる。	
	数字		[406] 具体物の数を数詞で答える。	
			[407] 言われた数詞の具体物をとる。	
			[408] 指差しをせずに目で追いかながら数える。	
			[409] 雜然としたものを整理して数える。	
	読む		[410] いろいろな物の中から仲間集めをして数える。	
			[411] 1から順に並んでいる数字を指差しながら読む。	
			[412] 示された数字を読む。	
			[413] 示された数字どおりの具体物をとる。	
	書く		[414] なぞり書きで数字を書く。	
			[415] 手本を見ながら数字を書く。	
			[416] 言われた数詞どおりの数字を書く。	
			[417] 具体物の個数を数えて数字を書く。	

領域	項目	T1	T2
数 と 計 算 ②	数 系 列 の 理 解 （ 順 序 数 ）	<p>[418] 5までの範囲で数唱をする。</p> <p>例：かくれんぼのとき数字を唱える。</p> <p>注：1段階では、4は「し」と唱えることを基本とする。</p>	<p>[420] 10までの範囲で数唱をする。</p> <p>例：教師から10カウントを言われて、「1、2、3、4、5～」のように10まで唱える。</p> <p>[421] 1～5までの数を順番に並べる。</p> <p>例：教師から数字カードを渡されて、1から上昇方向にカードを並べる。</p> <p>[422] 1～10までの数を順番に並べる。</p> <p>例：数字つなぎのプリント。</p> <p>[423] 順番や位置を表すのに数を用いる。</p> <p>例：前から何番目、後ろから何番目がわかる。</p> <p>[424] 「0」の意味がわかる（「0」がほかの数と同じ仲間として理解できる）。</p> <p>例：輪投げなどのゲームにおいて得点がない場合や、手元の輪がなくなるなどの体験を通して、何も「ない」状態を「0」で表すことが分かる。</p> <p>[425] 逆の順に数唱をする。</p> <p>例：「10、9、8、7～」の順に数を唱える。</p> <p>[426] 逆の順に数字を並べる。</p> <p>例：教師から渡された数字カードを、下降方向に並べる（毎回10を起点としないように注意する）。</p>
数 と 計 算 ②	数 の 大 小 ・ 多 少 比 較		<p>[427] 一対一対応の活動を通して、「同じ」「足りない」「あまり」の言葉の意味がわかる。</p> <p>[428] 2つの集まりの具体物において、同等・多少がわかる</p> <p>[429] 数詞を用いて大小・多少比較をする。</p> <p>[430] 数字を用いて大小・多少比較をする。</p>
1 ～ 0 ～ 合 ま 成 で ・ の 分 数 解 の ～ 構 成			<p>[431] 一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表す（合わせる・分けるの意味がわかる）。</p> <p>[432] 具体的な事物を加えたり減らしたりしながら、集合数を一つの数と他の数と関係付ける。</p> <p>[433] 10の補数がわかる</p>

領域	項目	T1	T2	T3
知・技 整数の表し方	[434] 20までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり、書き表したり、数の大小を比べたりする。	注) 小学部2段階における10までの数の数え方や表し方を基にする。	[440] 1000までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり分類して数えたりする。	例: ものを10ずつまとめて数え、それをさらに10のまとまりとして100と数えることを知る。
	[435] 助数詞を用いて表現する。	例: 個、人、本、枚など。	[441] 3位数の表し方について理解する。	注) 3位数を100のまとまり、10のまとまりの個数と端数で表す。
	[436] 100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり、書き表したり、数の系列を理解したりする。	注) 小学部2段階における10までの数の数え方や表し方を基にする。	[442] 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解する。	例: 硬貨を使って、800円は「百円硬貨が8枚集まった数」とみたり、80円は「十円硬貨が8枚集まった数」とみたりする。
	[437] 数える対象を2ずつや5ずつのまとまりで数える。	例: たくさんの鉛筆を5本ずつ束にして数える。	[443] 3位数の数系列、順序、大小について、数直線上の目盛りを読んで理解したり、数を表したりする。	注) ものさしの学習と関連させる。
	[438] 数を10のまとまりとして数えたり、2位数を10のまとまりと端数とに分けて数えたり書き表したりする。	例: 13個のおはじきを渡されたときに、まず10のかたまりを作てから数える。	[444] 一つの数を分割した同じ数のいくつ分として捉え、ほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関連付けてみる。	例: 120は12この10個分。12この卵1パックのため、120は卵パック10個と理解する。
	[439] 具体物を分配したり等分したりする。	例: 総数を1つずつなくなるまで分けて同じ数になるように分配したり、2等分や4等分、一つを等分したりする。	[445] 一つの数を分割した同じ数のいくつ分として捉え、ほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関連付けてみる。	[447] 数を千を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解を深める。
	[448] 数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かす。	例: 5つで数えること→時刻を知るときに役立つ。10ずつ数えること→金銭の理解に役立つ。	[449] 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かす。	[450] 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考える。
	[451] 具体物を操作する動きと用語を結びつける。	例: 合わせる、みんなで、たす、増えるなどの用語を使って具体物を操作する。	[456] 2位数の加法について理解し、計算ができる。筆算の仕方について知る。	[460] 3位数や4位数加法の計算の仕方について理解し、計算ができる。筆算についての仕方を知る。
	[452] 加法が用いられる合併や増加等の場合について理解する。	注) 合併: 合わせていくつ? 増加: いくつ増えた?	[457] 簡単な場合について3位数の加法の計算の仕方を知る。	例: 400+200を、百を単位とした数の見方に関連させて、硬貨を用いて4+2で考える。例: 327+35のように百の位に繰り上がりがない加法を解く。
数と計算③ 整数の加法	[453] 記号(+)を用いて、加法が用いられる場面を式に表したり、式を具体的な場面に即して読み取ったり、式を読み取って具体物や絵図を用いて表したりする。	具体物を用いてたし算をする→数字を用いてたし算をする→式を用いてたし算をする→繰り上がりのあるたし算をする	[458] 加法について成り立つ性質について理解する。	例: 加法の順序を変えて結果を比べる(17+6と6+17は同じ)、加法の確かめに減法を用いて計算を確かめる。
	[454] 1位数と1位数との加法	注) 繰り上がりのあるたし算のときは、「10とあといくつ」という見方を活用する。	[459] 計算機を使って、具体的な生活場面における簡単な加法の計算ができる。	[461] 加法に関して成り立つ性質を理解する。
	[455] 1位数と2位数との和が20までの加法の計算をする。	例: 13+4のような繰り上がりのない加法も扱う。	例: クラスの生徒の数と教師の数とを計算する。	例: 加法の順序を変えて結果を比べる、加法の確かめに減法を用いて計算を確かめる。
	[463] 具体物を操作する動きと用語を結びつける。	例: 残りは、違いは、ひく、減らすなどの用語を使って具体物を操作する。	[467] 2位数の減法について理解し、計算ができる。筆算の仕方について知る。	[471] 3位数や4位数の減法の計算の仕方について理解し、計算ができる。筆算についての仕方を知る。
	[464] 減法が用いられる求残や求差、減少等の場合について理解する。	注) 求残: 残はいくつ、いくつ減った? 求差: いくつ違う、いくつ足りない?	[468] 簡単な場合について3位数の減法の計算の仕方を知る。	例: 365-7や365-23のように百の位から繰り上がりがない減法を解く。
整数の減法	[465] 記号(=)を用いて、減法が用いられる場面を式に表したり、式を具体的な場面に即して読み取ったり、式を読み取って具体物や絵図を用いて表したりする。	具体物を用いてひき算をする→数字を用いてひき算をする→式を用いてひき算をする→繰り下がりのあるひき算をする	[469] 減法について成り立つ性質について理解する。	[472] 減法に関して成り立つ性質を理解する。
	[466] 20までの数の範囲で減法の計算をする。	例: 15-2のような繰り下がりのない減法も扱う。	[470] 計算機を使って、具体的な生活場面における簡単な減法の計算ができる。	例: 買い物にいたったときに、所持金から使用金額を引いたおつりを計算する。

領域	項目	T4	T5
数と計算	整数の乗法	[474] 乗法が用いられる場合や意味について知る。 例：みかんが2個ずつのったお皿が3つあるときにどのように計算するかを考える。累加（ $2 + 2 + 2$ ）としての乗法の意味（2の3倍、 2×3 ）を理解する。	[478] 1位数と1位数との乗法の計算ができる、それを適切に用いられる。
		[475] 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりする。 例：乗法九九を構成したり、式を読み取ってその場面を絵や具体物で表したりする。	
		[476] 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解する。 例：乗数が1増えれば、積は被乗数分だけ増えることに具体物を操作しながら気づく。	[479] 交換法則や分配法則といった乗法について成り立つ性質を理解する。 注) 交換法則： $7 \times 8 = 8 \times 7$ 、分配法則： $(8 + 5) \times 6 = 8 \times 6 + 5 \times 6$
		[477] 乗法九九について知り、1位数と1位数の乗法の計算ができる。 例：乗法九九を暗記する。	
	思・判・表	[480] 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見出すとともに日常生活で生かす。 例：多くのものを数えるときに、加法よりも乗法の方が便利なことを実感する機会を作れる。	[481] 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見出すとともに日常生活で生かす。
			[482] 除法が用いられる場合や意味について理解する。 例：8個のみかんを4人に同じ数ずつ分ける。
			[483] 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりする。 例：式を読み取ってその場面を絵や具体物で表す。
数と計算	整数の除法		[484] 除法と乗法との関係について理解する。 例：包含除： $2 \times \triangle = 8$ の△を求める場合であり、等分除： $\triangle \times 2 = 8$ を求める場合であり、どちらも乗法九九を使って答えを求めることができることに気づく。
			[485] 除数と商が共に1位数である除法の計算ができる。 例： $8 \div 2$ や $35 \div 5$ のように乗法九九を1回用いて商を求める計算
			[486] 余りについて知り、余りの求め方がわかる。 注) 具体物を操作する活動を通して、余りの大きさは除数よりも小さくなることを理解する。
			[487] 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見出すとともに、日常生活で生かす。
			[488] 端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知る。 例：1を10等分した単位をつくる活動
			[489] 10分の1位までの分数の仕組みや表し方について理解する。 注) 整数の数直線と関係付けて指導し、小数の理解を深める。
	分数の表し方		[490] 数のまとめに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ日常生活で生かす。
			[491] 2分の1、4分の1など簡単な分数について知る。 例：折り紙やひも、計量カツバや計量スプーンで半分の大きさを作ったり量ったりする。
数と計算	数量の関係を表す式		[492] 数のまとめに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ日常生活で生かす。
			[493] 数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりする。
			[494] □などを用いて数量の関係を式に表すことができるることを知る。
			[495] □などに数を当てはめて調べる。
	思・判・表		[496] 数量の関係に着目し、事柄や関係を式や図を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりする。

領域	項目	T1	T2	T3	図形①
もの種類や分類・整理	知・技	ものの類別や分類・整理 [497] 具体物に注目して指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりする。 [498] 形を観点に区別する。例: 身近なものを形で分ける。型はめ。	ものの分類 [506] 色や形、大きさに着目して分類する(複数条件での集合づくり)。例:同じ形で色が異なるものの、同じ色で形が異なるものを、それぞれ同じ色同士、同じ形同士の集合に分類する。		
		[499] 形が同じものを選ぶ。 [500] 似ている2つのもの事物の対応)。	[507] 身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類する。例: 食器を「ものを食べるとき」に使うもの、「ものを飲むとき」に使うもので分けたり、「食べ物をせるため」に使うもの」「飲み物や汁物を入れるために使うもの」で分けたりする。例:複数の絵カードを、乗り物とそうでないものに分ける(Aとnon'Aの集合づくり)。		
		[501] 関連の深い1つのものや絵カードを組合わせる。			
		[502] 同じもの同士の集合づくりをする(単純条件での集合づくり)。			
		[503] 対象物に注意を向けて、対象物の存在に気づき、諸感覚を協応させながら具体物を捉える。	[508] ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かす。		
	思・判・表	[504] ものの属性に着目し、様々な情報から同質なものや類似したものに気づき、日常生活の中で関心を持つ。	[508] ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かす。		
		[505] ものとのものとの関係に注意を向け、ものの属性に気づき、関心を持って対応しながら、表現する仕方を見つけ出し、日常生活で生かす。			
身の回りにあるものの形	知・技		[509] 身の回りにあるものの形に関心を持ち、丸や三角、四角という名称を知る。	[512] ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉える。	例: タイルや敷石の數き詰めなどの具体物の中から、△と見比べて、△は○と比べて角がある、△の角は3つある、△と△を比べると△の個数が異なることを捉える。
			[510] 縦や横の線、十字、△や□をかく(形を線で表すことで形の特徴に気づき始める)。	[513] 具体物を用いて形を作ったり分解したりする。	例: 積木や箱などの立体を用いて身の回りにある具体物を作る、身の回りにある立体から三角や四角を見つける。
			[511] 大きさや色など属性の異なるものであっても形の属性に着目して、分類したり、集めたりする。	[514] 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉(例:一番前、真ん中など)を用いてものの位置を表す。	例: 「自分から見て左にゴミ箱を置く」と指示されて応じる。例: 「入口の右側」と「右の入口」の違いを理解する。
	思・判・表		[515] 身の回りにあるものの形に関心を向け、丸や三角、四角を考えながら分けたり集めたりする。	[516] 身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けて、具体物を用いて形を作ったり分解したりする。	[517] 身の回りのものの形を图形として捉える。
					[518] 身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりする。

領域	項目	T3	T4	T5	図形②
图形②	知・技		[519] 直線について知る。	例: 定規を使って直線を引く。	[526] 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に着目する。
			[520] 三角形や四角形について知る。	例: 3本の直線で囲まれている形を三角形といい、4本の直線で囲まれている图形を四角形という約束事を知る。	[527] 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図する。
			[521] 正方形、長方形、直角三角形について知る。	例: 身の回りのもので、それらの形をしたものを見つける。紙を折り直角を作る。	
			[522] 正方形や長方形で捉えられる箱の形をしたものについて理解し、それを構成したり、分解したりする。	例: 格子状に並んだ点を線で繋いで形を描いたり、ひこを並べたり、紙を折ったり、板を並べたりして、图形を構成する。	[528] 基本的な图形と関連して角について知る。
			[523] 直角、頂点、辺、面という用語を用いて图形の性質を表現する。	例: 6枚の四角形を貼り合わせて箱を作る、12本のひこを用いて箱を構成する。紙の箱を切り取ってみたり切り取った形から箱を組み立てたりして、立体图形は平面图形によって構成されていることに気づく。	[529] 直線の平行や垂直の関係について理解する。
	思・判・表		[524] 基本的な图形がわかり、その图形をかいり、簡単な図表を作ったりする。	注) 定規を使って直線を引く技能があることが前提。	[530] 円について、中心、半径及び直径を知る。また、円に関連して、球についても直径などを知る。
			[525] 正方形、長方形、直角三角形をかいり、作ったりそれらを使って平面に敷き詰めたりする。	例: 大きい画用紙にそれらの形を隙間がないように並べる。	
	知・技		[531] 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、图形の性質を見いだし、身の回りのものの形を图形として捉える。	[532] 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察して图形の性質を見出すとともに、その性質を基に既習の图形を捉え直す。	
				[533] 面積の単位 (cm ² 、m ² 、km ²) について知り、測定の意味について理解する。	[534] 正方形及び長方形の面積の求め方について知る。
	思・判・表			[535] 面積の単位に着目し、图形の面積について、求め方を考えたり、計算して表したりする。	
角	知・技	[536] 傾斜をつくると角ができるることを理解する。	例: 自分が作った傾斜によってミニカーの速さが変わることを視覚的に捉える。その後に、斜面と底面でできる角に、紙粘土を詰めたり、紙に写し取ったりして、大きさとしての角を抽出する。	[538] 角の大きさを回転の大きさとして捉える。	[539] 角の大きさの単位 (°) について知り、測定の意味について理解する。
					[540] 角の大きさを測定する。
	思・判・表	[537] 傾斜が変化したときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい・小さいと表現する。	例: 抽出した角を重ねて比べ、大きい小さいなどの用語を使って角の大きさを表現する。	[541] 角の大きさの単位に着目し、四角の角の大きさを的確に表現して比較したり、图形の考察に生かしたりする。	

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	測定
測定	2つの量の大きさ	[542] 大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別する（児童は具体物を分けている段階で、大小等の比較はしていない）。	[545] 長さ、重さ、高さ、広さなどの量の大きさが分かる。				
		例：児童が「わあ大きい」「わあ多い」と実感できるような極端に大きい、多いなどの事実に関わる活動から始める。次に、大きさの異なる同種の二つの具体物について、それらを大きい、小さいのいずれであるかを判断して区別する。	例：児童が「わあ長い」「わあ高い」と実感できるような極端に長い、重い、高い、広いなどの事実に関わる活動から始める。次に、世の中に長さ、重さ、高さ、広さといった属性があることを知ったり、属性に注目して二つの量を比べたりする。				
		[543] ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現する。	[546] 二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べる。				
	思・判・表	例：2つの量を比べるときに、一方を「大きい」とした場合に、他方を「小さい」と決めるのを理解する。注）大きい方を「大きい」、小さい方を「大きい」と表現することもあるが、2つの具体物を大小の観点で分けられたこと、誤っていても用語を用いて表現したことを認めていく段階。	例：2つの量を比べるときに、一方を「長い」とした場合に、他方を「短い」と決めるのを理解する。注）大きい方を「小さい」、小さい方を「大きい」と表現することもあるが、2つの具体物を大小の観点で分けられたこと、用語を用いて表現したことを認めていく段階。				
		[544] 大小や多少等で区別することに关心を持ち、量の大きさを表す用語に注目して表現する。	[548] 長さ、重さ、高さ、広さなどの量を、一方を基準にして比べることに关心を持ったり、量の大きさを用語を用いて表現したりする。				
	量の単位と測定		[549] 長さ、重さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較する（直接比較と間接比較）。	[551] 目盛の原点を対象の端に当てて測定する（測ろうとする量のはじまりを見つける）。			
			例（直接比較）：2本の鉛筆の長さを比べる時に、一方の端を揃えて、他方の端の位置によって比べる。	例：鉛筆の長さを測る時に、一方の端に目盛りの原点を当てる。			
			例（間接比較）：一つしかない机の縦と横の長さを比較するときに、机の縦と横の長さをひもに置き換えて比べる。	[552] 長さの単位を知り、測定の意味を理解する（mm、cm、m、kmと単位関係）。			
	思・判・表		[550] 身の回りにあるものの大きさを単位として、そのいくつか分で大きさを比較する（任意単位を用いて量を数値化して比較する）。	[553] 重さの単位を知り、測定の意味を理解する（g、kgと単位関係）。			
			例：机の縦と横の長さを鉛筆のいくつかに置き換えて、どちらがいくつ分長いか比べる。	例：アナログ式の上皿秤、デジタル秤を使って測る。			
	時刻や時間			[554] かさの単位を知り、測定の意味を理解する（ml、dl、ℓと単位関係）。			
				例：計量カップを使って測る。			
				[555] 長さ、重さ、かさについて、およその見当をつけ、単位を選択したり、計器を用いて測定したりする。			
	思・判・表			例：ものを見ておよその長さや重さを当てるクイズをする。			
		[558] 1日の生活を大まかに流れで捉える。	[560] 関心のある場面で時刻を意識する。	[562] 日常生活の中で時刻を読む。	[565] 時間の単位（秒）について知る。		
	知・技	例：起きる→登校→学校での生活→帰宅後の生活→就寝、の流れを理解する。	例：給食、下校、好きな遊びが始まる時刻を時計で示す。	例：長針と短針の区別ができることが指導の前提である。	例：秒で測定したものを分に換算する。		
		[559] 日課表やスケジュールでその日の予定を理解する。	[561] 時間についての量感を捉える。	[563] 時間の単位（日、午前、午後、時、分）について知り、それらの関係を理解する。	[566] 日常生活に必要な時刻や時間を求める。		
	思・判・表	注）日課表やスケジュールの種類は子どもが理解できるものを使う。	例：水時計や砂時計、タイマーなどを利用して、決められた時間内にどれだけできるかを競う。	例：午後1時を13時と読む、例：「1時まであと4分」のように時間に分を置き換える。	例：出発から目的地への到着までの所要時間を計算する。		
				[564] 時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結びつけて表現する。	[567] 時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かす。		
				例：決められた時刻まであとこれだけ、もう少しで1時を意識して行動する。	例：カップラーメンを作るときにタイマーをセットし、最後の1分になったら60数えることで、1分=60秒を意識させる。		

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	変 化 と 関 係
変 化 と 関 係	伴 つ て 変 わ る 2 つ の 数 量	知 ・ 技	[568] 変化の様子を表や式を用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりする。				
		思 ・ 判 ・ 表		[569] 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化の特徴を考察する。			
2 つ の 数 量 の 関 係		知 ・ 技		[570] 簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知る。			
		思 ・ 判 ・ 表		[571] 日常生活における数量の関係に着目し、図や式を用いて、二つの数量の関係を考察する。			

領域	項目	T2	T3	T4	T5	データの活用
データの活用	ものの分類	知・技	[572] 身近なものを目的、用途、機能に着目して分類する。 例：食器を「もの」を食べるとき「使うもの」 「ものを飲むときに使うもの」で分けたり、「食べ物をのせるために使うもの」「飲み物や汁物を入れるために使うもの」で分けたりする。			
		思・判・表	[573] 身近なものの色や形、大きさ、目的及び用途等に関心を向け、共通点や相違点を考えながら、興味を持って分類する。 例：それぞれの授業で使うものを分類して片付けたり整理したりする。			
	同等と多少	知・技	[574] もののとを対応させることによって、ものの同等や多少がわかる。 例：お皿にみかんを1つずつ入れて、数が合わないとき、それに気づきどちらかが「多い」「少ない」ことがわかる。			
		思・判・表	[575] 身の回りにあるものの個数に着目して絵グラフなどに表し、多少を読み取って表現する。 例：給食の配膳のときに「足りない」「余っている」「同じ」と表現する。			
	表	○×を用いた表	簡単な絵や図、記号による整理	簡単な表やグラフによる整理	表やグラフによる整理	
		知・技	[576] 身の回りの出来事から○×を用いた簡単な表を作成する。 例：的あてゲームなどの活動で、当たらぬかったら×などの記号を用いた表を作成する。	[578] もののとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだりする。 例：あひる、ねこ、うさぎなどいくつかの種類のものについて、種類ごとに分類したり、整頓して並べたりしながら数の大小を比べる。	[580] 身の回りにある数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりする。 例：好きな給食のメニューを学年で実施したアンケート結果を整理した表やグラフから、一番人気があるメニュー、次に人気があるメニュー、それぞれの人数の違いなどの情報を読み取る。	[581] データを日時や場所などの観点から分類及び整理し、表や棒グラフで表したり読んだりする。
		思・判・表	[577] 簡単な表で使用する○×の記号の意味がわかる。 例：表を見て○と×の意味がわかる。	[579] 身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取る。 例：校内実習期間中に、作業の出来高をシールに置き換えて表にし、日による成果を比較する。		[582] データを二つの観点から分類及び整理し、折れ線グラフで表したり読み取ったりする。 [583] 表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその用い方を理解する。
	思・判・表	[584] 身の回りの出来事を捉え、○×を用いた簡単な表で表現する。 例：日常の生活の中で、忘れ物をしなかった日に忘れた物をした日に×などの記号を用いた表を作成する。	[585] 個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現する。 例：毎日の天気調べの時に、晴れマーク、曇りマーク、雨マーク等を種類ごとに並べ整理する。	[586] 身の回りの事象に関するデータを○×で表にしたり、整理する観点に着目してだけを集めて並し、簡単な表やグラフ等を種類ごとに並べ整理する。 例：ゲームの結果を表にしたデータを整理する観点に着目して示した絵グラフを用いながら読み作成したりしながら取りったり、考察した結果を比較する。	[587] 身の回りの事象に関するデータをデータを集めて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したりする。	[588] 目的に応じてデータを集めて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりする。

領域	中項目	小項目	T1	T2	T3	金 銭 の 扱 い
金 銭 の 扱 い	金銭の扱い		[187] お金で品物が買えることがわかり、大切に扱う。	[188] お年玉やお小遣いなど自分の金銭を財布や貯金箱に大切に保管する。	[189] 日常生活で金銭が必要なことがわかり、遣い道を考えて違う、銀行などを活用する。	
	買い物の仕方	品物選び	[190] 教師と一緒にお店に入って買い物をする。	[191] 必要なところは教師の支援を受けながら、できるだけ自分で買い物をしようとする。	[192] 自分で目的に応じた買い物をする。	
	買い物	支払い	[193] 指示された品物、事前に決めた品物を買う。	[194] 自分でその場で選んで買う。	[195] 値札を見て買う。品物がどこにあるかわからないときに店員さんに売り場を尋ねる。	
	自動販売機の利用		[196] 所持金をすべて渡して支払う。または電子マネー等で支払う。	[197] 値札を見て、金額を意識しながら支払う。	[198] 所持金内で買える値段がわかつて買い物をする。	
			[199] 教師と一緒に自動販売機を利用し、一連の流れを理解する。	[200] できるだけ一人で自動販売機を利用する。	[201] 様々な自動販売機を目的や状況に合わせて自分で利用する。	

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	G 音 樂 ①
音 樂 遊 び	思考力 判断力 表現力	[589] 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聞いて、自分なりの楽しさを見つけようとする					
		[283] 快反応を示す音がある、繰り返しの声掛けに期待する（例：こしょこしょ）					
		[284] 音や声がした方向に注意を向ける。教師が声をかけたり歌を歌ったりすると注意を向ける					
		[590] 表現する音や音楽に気づく					
		[591] 音や音楽を感じて身体を動かす技能（手足を動かしたり、全身を揺すったりする動き）					
	技能	[592] 音や音楽を感じて楽器の音を出す。（手足を使って楽器を鳴らしたり、ばちを使って音を出したりする動き）					
		[593] 音や音楽を感じて声を出す技能（音楽に合わせて声を出したり、音楽が止まった時に声をだしたりする動き）					
		[594] 好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつ	[595] どのように歌うかについて思いを持つ	[596] 曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図を持つ	[597] 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図を持つ		
		[598] 曲の特徴的なリズムと旋律に気づく	[599] 曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わりに気づく	[600] 曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わりに気づく	[601] 曲名や曲想と音楽の構造との関わりに気づく		
		[602] 曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉に気づく	[603] 曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わりに気づく	[604] 曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わりに気づく	[605] 曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わりに気づく		
表 現 歌 唱	思考力 判断力 表現力	[606] 範唱を聞いて、曲の一部分を模唱する技能	[607] 範唱を聞いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする技能	[608] 範唱を聞いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりする技能	[609] 歌詞やリズム、音の高さ等を意識して歌う技能		
		[610] 自分の歌声に注意を向けて歌う技能	[611] 自分の歌声の大きさや発音などに気を付けて歌う技能	[612] 発声の仕方に気をつけ歌う技能	[613] 呼吸及び発音の仕方に気をつけて歌う技能		
		[614] 教師や友達と一緒に歌う技能	[615] 教師や友達と一緒に声を合わせて歌う技能	[616] 友達の歌声や伴奏を聞いて声を合わせて歌う技能	[617] 独唱と齊唱及び簡単な輪唱などをする技能		
	技能	[618] 身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつ。	[619] 器楽表現に対する思いを持つ	[620] 曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図を持つ	[621] 曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図を持つ		
		[622] 拍や曲の特徴的なリズムに気づく	[623] リズム、速度や強弱の違いに気づく	[624] 曲の雰囲気と音楽の構造との関わり	[625] 曲想と音楽の構造との関わりに気づく		
		[626] 楽器の音色の違いに気づく	[627] 演奏の仕方による楽器の音色の違いに気づく	[628] 楽器の音色と全体の響きとの関わり	[629] 多様な楽器の音色と全体の響きとの関わりに気づく		
		[630] 範奏を聴き、模倣をして演奏する技能	[631] 簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする技能	[632] 簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能	[633] 簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して演奏する技能		
		[634] 身近な打楽器を演奏する技能 [318] 二つの物を打ち合わせる動き（拍子木、タンバリン等）	[635] 身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能	[636] 音色や響きに気をつけて、打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能	[637] 打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気をつけて演奏する技能		
	思考力 判断力 表現力	[638] 教師や友達と一緒に演奏する技能	[639] 教師や友達の楽器の音や伴奏を聞いて、音を合わせて演奏する技能	[640] 友達の楽器の音や伴奏を聞いて、リズムや速度を合わせて演奏する技能	[641] 友達の楽器の音や伴奏を聞いて、リズムや速度を合わせて演奏する技能		

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5	音楽②	
音楽	音楽づくり	思考力・判断力・表現力	[642] 音遊びを通して、音の面白さに気付く	[643] 音遊びを通して、音の面白さに気づいたり、音楽づくりの発想を得たりする	[644] 音遊びを通して、どのように音楽をつくるのかについて発想を得る	[645] 即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得る	音楽②	
			[646] 音や音楽で表現することについて思いをもつ	[647] どのように音を音楽にしていくかについて思いを持つ	[648] 音を音楽へと構成することについて思いや意図を持つ	[649] 音を音楽へと構成することについて思いや意図を持つ		
			[650] 声や身の回りの様々な音の特徴に気づく	[651] 声や身の回りの様々な音の特徴	[652] いろいろな音の響きの特徴	[653] いろいろな音の響きやその組み合わせの特徴を理解する		
			[654] 音のつなげ方の特徴に気づく	[655] 簡単なリズム・パターンの特徴	[656] リズム・パターンや短い旋律のつなげ方の特徴	[657] リズム・パターンや短い旋律のつなぎ方や重ね方の特徴を理解する		
			[658] 音を選んだりつなげたりして、表現する技能	[659] 音を選んだりつなげたりして表現する技能	[660] 設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現する技能	[661] 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能		
		身体表現	[662] 教師や友達と一緒に簡単な音や音楽を作る技能	[663] 教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能	[664] 音楽の仕組みを生かして、簡単な音楽をつくる技能	[665] 音楽の仕組みを生かして音楽をつくる技能		
	身体表現		[666] 簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いを持つ	[667] 簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことについて思いを持つ	[668] リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図を持つ	[669] リズムの特徴や曲想を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつ		
			[670] 拍や曲の特徴的なリズムに気づく	[671] 曲のリズム、速度、旋律に気づく	[672] 曲の雰囲気と音楽の構造との関わりに気づく	[673] 曲想と音楽の構造との関わりに気づく		
			[674] 曲名と動きとの関わりに気づく	[675] 曲名、拍やリズムを表す言葉やかけ声、歌詞の一部との関わりに気づく	[676] 曲名や歌詞と体の動きとの関わりに気づく	[677] 曲名や歌詞と体の動きとの関わりに気づく		
			[678] 示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす技能	[679] 示範を見たり、拍やリズム、旋律を意識したりして、身体表現をする技能	[680] 示範を見て体を動かしたり、曲の速度やリズム、曲の雰囲気に合わせて身体表現したりする技能	[681] 示範を見て表現したり、曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現したりする技能		
鑑賞	思考力・判断力・表現力	知識	[682] 音や音楽を聴いて、手足や身体全体を自然に動かす技能	[683] 音や音楽を聴いて、様々な体の動きで表現する技能	[684] 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせて身体表現をする技能	[685] 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせてまとまりのある表現をする技能	音楽②	
			[686] 教師や友達と一緒に体を動かす技能	[687] 教師や友達と一緒に体を使って表現する技能	[688] 友達と動きを合わせて表現する技能	[689] 友達と動きを相談して、合わせて表現する技能		
			[690] 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見つけようとする	[691] 身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴く	[692] 曲や演奏の楽しさを見いだして聴く	[693] 曲や演奏のよさなどを見出して聴く		
共通事項	思考力・判断力・表現力	知識	[695] 聽こえてくる音や音楽に気づく	[696] 身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見つける	[697] 曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気づく	[698] 曲想とリズムや速度、旋律の特徴との関わりについて分かる	音楽②	
			[285] 特定の音が何らかの前触れを示していることに気づく					
			[286] 新しい音楽や音楽の変わり目に反応する					
	知識	思考力・判断力・表現力	[700] 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える		[701] 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える		音楽②	
			[702] 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて、その意味に触れる		[703] 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解する			

領域	項目	T1	T2	T3	T4	T5		
	指導内容	[704] 材料などから、表したいことを思いつくこと [709] 身の回りの自然物などに触れながら、かく、切る、ぬる、はるなどをすること	[705] 材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思いつくこと [710] 身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること	[706] 材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことを表したいことを思いつくこと [711] 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくったりすること	[707] 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想すること [712] 材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて表し方を工夫し、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表す	[708] 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想すること [713] 材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組合せたりして計画的に表すこと		
	材料	身の回りの自然物…土、粘土、砂、小石、木の葉、小枝、木の実、貝殻、雪や氷、水など	身近な自然物…土、砂、石、粘土、草木など 人工の材料…紙、新聞紙、段ボール、布、ビニール袋やシート、包装紙、紙袋、縄やひも、空き箱、スチレンボード、プラスチックなど	身近な自然物…土、砂、石、粘土、草木など 人工の材料…紙、布、積木、アルミ箔、空き缶、スチレンボード、針金、プラスチック、ゴムなど	内容	[714] 対象をよく見て、形や色彩などの特徴を捉えたり、感じたことを材料や絵の具の性質、用具の特長を生かしたりして表すこと。 絵や版画、ポスターのデザインなど。	[715] 直接経験したことだけでなく想像したことを題材として表現する。自分の表したいことや用途などを考えながら、それを基に、新しいことを考えて発想や構想をする。	
	用具	からだ全体、手指そのもの、棒きれなどたまたま手にしたもの	クレヨン、バス、絵の具、カラーペン、のり、粘着剤、ステーブラー、はさみ、へら、シャベルなど	2段階の用具に加えて、簡易な木材加工用具、金属加工用具（かなづち、のこぎり、ベンチ、彫刻刀、くぎ、ねじなど）	方法	版画…木版、ゴム版、スチレンボード版など	<描く>絵や版画で表したり、平面のデザインをしたりする際の材料	
	かく遊び	<かく・ぬる> 地面や壁、机や廊下の床板、新聞紙が画用紙代わりになることもあります。 [296] ひっかく（指の関節を曲げたり緩めたりする動き）	<かく> 題材…身近な人、動植物、自然、体験したことなど 表現…上記の用具を使って器物の型押し、スタンピングでの模様作りを含む	○主題…学校行事、社会の行事、自然現象の体験、童話などの親しみのある話などの題材の中から児童自身が決めることが大切、友だちと共にした体験をすることから共同でかいたりつくったりすることも考えられる ○題材名…表現する喜びを味わい、造形的な創造活動を楽しもうとする意欲がわくものにする	材料	描画…水彩絵の具、ポスターカラー、色鉛筆、ペン、パステル、色紙など	<つくる>粘土、紙、石、布、木、金属、プラスチック、スチレンボード、ニス、水性・油性塗料、建築・土木工業用の資材など	
表現	つくる遊び	<切る・はる> 素材そのものに触れて楽しむ、つぶす、伸ばす、ちぎる、丸める、破る、接合する、積み上げる、崩す、並べる、穴を開けるなど [297] たたく（手の各部分を上げる下げるという関節の動きがスマーズにできること） [298] 抜く（棒などを握ったまま上や前方向に動かす） [299] 入れる（入れるところを意識し、意図的に手を離すこと） [301] 積む（力を調節して、目的のところで離すことや手と目の協調した動き） [303] はぐ（指の関節を動かしたり、紙等をつかんだりつまんだりして目的のものをはがす動き） [304] ねじる（指でつまみながら手首を回す動き）	<形をつくったりすること> 見たり感じたりしたことを簡単な形で表し、その形で表したものに意味付けをして表すこと [302] すくう（手を内回りから外回りに動かしたり、手首を曲げたり伸ばしたりする）		題材	○絵や版画の題材…静物や風景の観察や描写、学校行事や社会行事などの印象、想像画 ○デザインの題材…ポスター、案内表示・標識、表紙装丁デザイン、カット、模様・装飾	用具	塗装用具、接着剤、彫刻刀、簡易な木材・金属加工用具、電動工具のこぎりや研磨機などの電動工具
	鑑賞	[718] 身の回りにあるものなどを見る こと	[719] 身近にあるものなどの形や色の面白さについて感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること	[720] 自分たちの作品や、日常生活の中にあるものなどの形や色、表し方の面白さなどについて、感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること	内容	[716] 彫刻などの立体に表すこと、生活中役立つ器物を作ること、工芸品の製作		
	共通事項	[725] 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気づくこと [729] 形や色などを基に、自分のイメージを持つこと	[726] 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気づくこと [730] 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと	[727] 形や色彩、材料や光などの特徴について知ること [731] 造形的な特徴などからイメージをもつこと	方法 用具 題材 飾る 内容	いろいろな造形材料の性質を生かした加工、塗装加工、塑像や焼成加工のある器物の活用 ○彫刻や立体の題材…人、動物、乗り物、建物など ○工芸品の題材…箱、筆立て、ベン皿、焼き物の器物 [717] つくった作品を教室や廊下の掲示板に展示すること、実際に使用して造形表現が生活に役立つことを経験し、関心を深めたり愛着を持って扱ったりすること	[722] 自分たちの作品や美術作品などを鑑賞して、よさや面白さ、美しさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めること [724] 表し方や材料による特徴の違いなどを捉え、自分の見方や感じ方を深めること	[728] 形や色彩、材料や光などの特徴について理解すること [732] 造形的な特徴などからイメージを捉えること

発達段階	擦画期	錯画期	象徴期	カタログ期	図式前期	図式後期	絵の発達段階
年齢	1~2歳	1歳6ヶ月~3歳	3~4歳	3~5歳	5~6歳	7歳以上	
特徴	[1178] 「なすりつけ、こすりつけ」 運動的な快感と汚す興味によって描かれる	[1179] 「ぐしゃぐしゃ描き、なぐり描き」 物に作用し、その物と自分との関係を知り、目と手の協応を一致させるもので肉体的にも快い満足感を得ている、他者に「見て！」と共に感を求める	[1180] 「初めて形らしきものが描かれる」 描きながら考える	[1181] 「自分の知っている形をいろいろと描く」	[1182] 「自分を中心いて物との関係を理解し描く」	[1183] 「見えた通りに描くことができるようになる」	
	○ こぼした水をテーブルに指でこすりつけたりなど、その感触を楽しみ、痕跡に興味を持つ	○ 意思のあるしっかりとした線を描く、曲線、円形の線も描くようになる	○ 三角や四角や円らしきものが記号のように象徴的に表れる、頭足人を描く	○ 脈絡なく知っている形を商品のカタログが並んでいるように描く	・画面に上下左右ができる、大小のバランスや物と物との関係づけができる ・物の固有色を使う傾向が見られる ・どの子も共通した記号的要素を描く（例：家、木、太陽、花）。・認識のある事物を描く（例：家、車、木など） ・ベースラインを決めて描く（例：地面との境界に一本の線、画用紙の下の縁）	・物と物との重なりや遠近が画面に表現されてくるようになる ・写実的に描くことに関心を持ち始める	
技術							

内容	T1	T2	T3
サ 生 命 ・ 自 然	知識 ・ 技 能 [1300] 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとしてすること。	[1301] 身近な生命や自然の特徴や変化がわかり、それらを表現しようとしてすること。	[1302] 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。
	思 ・ 判 ・ 表 [1303] 散策や校外歩行を通して虫や鳥などの生き物に気付き、教師と一緒に他者に伝えようとしてることができる。	[1304] 虫や小動物の飼育を通して生き物の変化が分かり、他者に伝えようとしてことができる。	[1305] 虫や魚、小動物などの生き物を観察する活動を通して、特徴や変化を、他者に伝えようとしてことができる。
	思 ・ 判 ・ 表 [1306] 散策や校外歩行を通して花や木、果実などの植物に気付き、教師と一緒に他者に伝えようとしてることができる。	[1307] 花や野菜の栽培を通して植物の成長や変化が分かり、他者に伝えようとしてことができる。	[1308] 花や野菜の栽培を通して、季節に応じた植物の変化や特徴を観察し、分かったことを他者に伝えようとしてことができる。
	知 ・ 技 [1309] 空や天気、季節の変化に気付き、自分なりの方法で他者に伝えようとしてることができる。	[1310] 天候の変化や暑さ、寒さなどの季節の特徴が分かり、他者に伝えようとしてことができる。	[1311] 天気予報などの情報を聞きして天気の変化を観察したり、四季の変化を観察したりして、分かったことを他者に伝えようとしてことができる。
	知 ・ 技 [1312] 散策や校外歩行を通して、生き物や植物に気付き、注目することができる。	[1313] 飼育や栽培を通して、水やりやえさやりなど生き物や植物の成長に必要なことを知り、取り組むことができる。	[1314] 飼育や栽培を通して、生き物や植物の成長に必要な物や環境を調べ、実践しようとしてることができる。
	知 ・ 技 [1315] 伝統行事にまつわる学習を通して、季節に応じた行事を知り、関わろうとすることができる。	[1316] 伝統行事にまつわる学習を通して、季節と行事の関係を知り、活動に取り組むことができる。	[1317] 伝統行事にまつわる学習を通して、季節と行事の関係を調べ、主体的に関わろうとしてことができる。
シ も の の 仕 組 み と 働 き	思 ・ 判 ・ 表 [1318] 物を運ぶ、重さを比べる活動を通して物の重い、軽いに気付き、教師と一緒に他者に伝えようとしてことができる。	[1319] 天秤やばね秤などの道具を活用して重さを計る活動を通して、物の重い、軽いに気付き、他者に伝えようとしてことができる。	[1320] 日常生活の中で、ものの仕組みや働きが分かり、それらを表現すること。
	思 ・ 判 ・ 表 [1321] 風やゴムの力を利用した活動を通して、風やゴムが物を動かす様子や変化に気付き、教師と一緒に他者に伝えようとしてることができる。	[1322] 風やゴムの力を利用した活動を通して、風によって起こる空気の流れやゴムの力が分かり、他者に伝えようとしてことができる。	
	思 ・ 判 ・ 表 [1323] 物を運ぶ、重さを比べる活動を通して物の重い、軽いに合わせた力で運ぶことができる。	[1324] 天秤やばね秤などの道具を活用して重さを計る活動を通して、物の重い、軽いを知り、物の重さに応じた力で活動に取り組むことができる。	[1325] ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べること。
	思 ・ 判 ・ 表 [1326] 風やゴムの力を利用した活動を通して、風やゴムが物を動かす様子に注目し、活動に関わろうとしてことができる。	[1327] 風やゴムの力を利用した活動を通して、風やゴムの力を生かしたおもちゃ作りなどの活動に取り組むことができる。	

内容	大項目	小項目	T4			T5			理科①			
生物	生物の特徴	観察	[1328] 様々な種類の植物や様々な種類の動物を観察する際に、見たり、触れたり、においを感じたりするなど直接観察する。	[1329] 観察したことを図や絵、映像などに記録する。	[1330] 観察した記録を比較する。	[1335] 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることについて知る。			理科①			
		生物の成長	[1331] 様々な生物の色、形、大きさなどの特徴について調べる活動を通して、生物にはそれぞれに固有の形態があることを知る。	[1332] 生物の姿、昆虫や植物の育ち方などについて、違う点や同じ点に気付く。	[1333] 「虫の形は全部違うのかな」や「この花はこの後にどうなるのかな」といった考えをもつ。	[1336] 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを知る。						
		生物の成長	[1334] ・昆虫の育ち方には、「卵→幼虫→蛹→成虫」というようない定の順序があることを知る。 ・植物の育ち方には、種子から発芽し子葉が出て、葉がしげり、花が咲き、花が果実になった後に個体は枯死するという一定の順序があることを知る。									
	く人のと体連の動づ	骨と筋肉				[1337] 体を支えたり体を動かしたりするときに使われる骨と筋肉があることを知る。	[1338] 体の各部には、手や足のように曲がるところと曲がらないところがあり、曲がるところを関節ということを知る。					
	太陽と地面	日なたや日陰の観察	[1339] 手や足で地面に触れて感じとったり、温度計を用いて地面の温度を測定したりする	[1340] 朝と昼頃の日なたの地面の温度を測定し、測定結果を数値化す	[1341] 日陰や影を観察し、太陽や影の位置について、地面に描いたり、方位磁針を用いて方位を調べたりする	[1345] 「日陰や影ができる向きにはきまりがあるのかな」や、「どこの日なたも日陰より暖かいのかな」といった考えをもつ						
		太陽と日陰の関係	[1342] 日陰は太陽の光を遮るとできることを知る。	[1343] 雲が太陽の光を遮ることから、雲っているときには影や日陰ができることを知る。								
		太陽と温度の関係	[1344] 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあることを知る。									
地球・自然	雨水の観察	雨水の観察				[1346] 雨があがった後の校庭や教材園などに見られる雨水の流れの方向を観察する。	[1347] 雨水の流れの方向から地面の傾きの違いについて調べる。	[1348] 粒の大きさの違う土を用いて、水がしみ込むまでの時間を比べる。	理科①			
		雨水の流れ方				[1349] 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まることを知る。	[1351] 雨水の流れ方や雨粒のしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさと関係付けて調べる。見出した疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現する。					
		雨水のしみ込み方				[1350] 水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあることを知る。						
	天気の様子	気温の変化				[1352] 気温の適切な測り方を知る。	[1353] 気温の変化をグラフに表す。	[1354] 天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあることを知る。				
月と星	月の特徴	水の状態変化				[1355] 容器に入れた水が、時間をかけて蒸発することを観察する。	[1356] 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくことを知る。	[1357] 天気の様子や水の状態変化と気温や水の行方との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現する。	理科①			
		月の特徴				[1358] 三日月や半月、満月などによって形が変わることを知る。	[1359] 一日の内でも時刻によって月の位置が変わることを知る。	[1360] 月の位置の変化と時間の経過との関係について調べる中で、見出した疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現する。				
	特星徵の	特星徵の				[1361] 空には、明るさの違う星があることを知る。	[1362] 星には青白色や赤い色など色の違いがあることを知る。					

内容	大項目	小項目	T4	T5	理科②
H 理科②	物と重さ	測定	[1363] てんびんや自動上皿はかりを用いて測定する。		
		物と重さ	[1364] 粘土やアルミニウム箔、新聞紙など、数種の身の回りにある形の変えられる物を、広げたり、いくつかに分けて丸めたりすることで形を変え、そのときの重さの違いを調べる。	[1365] 物は、形が変わっても重さは変わらないことを知る。	[1368] 物の形や体積と重さとの関係について調べる中で、差異点や共通点に気付き、物の性質についての疑問を持つ。
		重さと体積	[1366] 身の回りにある粘土や砂などの物を、容器などを用いて体積を同じにして重さの違いを調べる。	[1367] 物は、体積が同じでも重さは違うことがあることを知る。	
	風やゴムの力の働き	観察	[1369] 風とゴムの力と物の動く様子に着目して、それらを比較する。	[1370] 風とゴムの力の働きを調べる。	[1371] 調べる活動を通して、それらについて理解する。
		風の力	[1372] 風の力は、物を動かすことができる事を知る。	[1373] 風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わることを理解する。	
		のゴムの力	[1374] ゴムの力は、物を動かすことができる事を知る。	[1375] ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わることを理解する。	
	光や音の性質	観察	[1376] 光を当てたときの明るさや暖かさ、音を出したときの震え方に着目する。	[1377] 光と音の性質について調べる。	[1378] 調べる活動を通して、それらについて理解する。
		光	[1379] 日光は直進すること、物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わることを知る。	[1380] 光を当てたときの明るさや暖かさの様子について調べる中で、差異点や共通点に気付く。	[1381] 光の性質についての疑問をもち、表現すること。
		音	[1382] 物から音が出来たり伝わったりするとき、物は震えていることを知る。	[1383] 音を出したときの震え方の様子について調べる中で、差異点や共通点に気付く。	[1384] 音の性質についての疑問をもち、表現すること。
	磁石の性質	観察	[1385] 磁石を身の回りの物に近付けたときの様子について調べる。差異点や共通点に気付き、磁石の性質についての疑問をもち、表現する。	[1386] 二つの磁石を近付け、磁石が相互に引き合ったり、退け合ったりする様子を観察する。	
		磁石の性質	[1387] 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があることを知る。	[1388] 磁石の異極(は引き合い)、同極(は退け合う)を理解する。	[1389] 磁石の異極(は引き合い)、同極(は退け合う)を理解する。
		電気の通り道	[1390] 乾電池と豆電球などをつないだときの様子について調べる。電気の回路についての疑問をもち、表現する。	[1391] 身の回りにあらいろいろな物を入れたときの豆電球などの様子に着目して、それらを比較しながら、電気を通す物や通さない物を調べる。	
	通電り気道の		[1392] 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があることを知る。	[1394] 電気を通す物と通さない物があることを理解する。	[1395] 物には電気を通す物と通さない物があることを理解する。
	水や空気と温度	温度と水の状態変化		[1396] 水や空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わることを知る。	[1397] 水は、温度によって液体、気体、または固体に状態が変化することを知る。

大項目	中項目	小項目	T1	T2	T3	き ま り
き ま り	自 他 の 区 別	自分の物 の区別	[1117] 教師と一緒に自他の物を区別する。	[1118] 自分の物と他人の物がわかる。	[1119] 物を貸し借りする。	
		公共物等 の区別	[1120] 教師と一緒に共通の物を貸したり返したりする。	[1121] 共通の物を借りたり使つたりしたら必ず返す。	[1122] 落とし物を拾ったときは教師に届けたり、持ち主を探して手渡したりする。	
	学校の決まり		[1123] 教師と一緒に学校には様々な決まりがあることを知る。	[1124] 学校には様々な決まりがあることを知り、それを守る。	[1125] きまりがあることの意義を知り、必要に応じて簡単なきまりを相談してつくる。	
	日常生活の決まり		[1126] 教師と一緒に日常生活における簡単な決まりを知る。	[1127] 日常生活の様々な決まりを知り、それを守る。	[1128] きまりがあることの意義を知り、進んで決まりを守る。	
	マナー				[1129] バスや電車、病院や図書館などでは静かに行動したり過ごしたりする。	

大項目	小項目	T1	T2	T3	社会の仕組み
社会の仕組み	家族・親戚・近所の人	[1130] ○自分の父母、兄弟姉妹、祖父母がわかり家族と気持ちを安定させて生活する ・家族や親戚の様子に关心を持つ ・身近な地域に興味や关心を持ち自分との関わりに気づき、それらの働きを知る	[1131] ・家族がそれぞれ役割を持つことに気づく ・身近な地域で働く人などに対して関心を広げていく	[1132] 家族や親戚、近所の人々の名前を言ったり、家族の職業や身近に見られる職業が分かったりする	
	学校	[1133] ○校内探検を通して自分の学級や音楽室図書室などに关心を持ち、その場所や名称を知る。 ・教室の場所や用途に关心を持つ ・学校で働く人に興味や关心を持ち ○身近な先生が分かり気持ちを安定させて生活する	[1134] 学校にある教室の名称や主な用途がわかるとともに、学校で働く様々な人に关心を持つ	[1135] ・学校で働く人と自分との関わりに気づき、それらの働きを知る ・学校で働く人の職業名と果たしている役割がわかる	
	いろいろな店	[1136] ○近隣や通学路にある店に关心を持てる ・店の種類がわかる ・店の名前を言う ・それぞれの店で売っている品物が分かる	[1137] 教師と一緒に買い物に行きいろいろな種類の店やそこで販売している商品に关心を持つ	[1138] いろいろな店の種類がわかり、それぞれの店の名称やそこで扱っている商品の名前が言える	
	社会の様子	[1139] ○自分が住む近所には商店、公園、学校、駅などがあることに気づき、それらに关心を持つ ・住んでいる地域の自然や街の様子に关心を持つ ・住んでいる地域の自然や街の様子の特徴がわかる ・自分の住んでいる地域の名称、住所がわかる ・地域や社会の出来事に興味や关心を持つ	[1140] ○自分が住む町の公共施設やいろいろな商店、河川、山、公園などの様子に关心を持つ、およその名称などを知るとともに、自分の生活との関連について知る	[1141] ○自分の住む地域や隣接する市町村の名称が分かる ・自分が住んでいる地域や周辺の地域の田畠、大きな河川、港湾、商業地や工業地、住宅地などのおよがわかる ・地域でみられる産業にも关心を深め働きを知る ・テレビや新聞、インターネットなどで身近な社会の出来事を知り、关心を持つ ・国民の祝日に関しておよその意味がわかる	
	公共施設の利用	[1142] ○児童にとって身近な公園や図書館、駅などの公共施設を安全に利用しながら、その役割に気づく ・公共施設を利用する ・公共施設の名前を言う ・公共施設の場所が分かる ・公共施設の役割が分かる	[1143] 図書館、体育館、児童館など身近な公共施設を適切に利用し、およその働きがわかる	[1144] 警察署、消防署などを実際に訪問したり見学したりして社会の一員としての利用の仕方を知り、およその仕事の様子が分かる	
	交通機関の利用	[1145] ・交通機関の名称や利用方法、目的地まで行くための交通機関を知る ・電車やバスなどを利用し、乗降時には様々な方法で料金を支払う	[1146] ・電車やバスなどを利用し、切符を購入したり料金を支払ったりすることなどに慣れる ・いろいろな交通機関があることを知る	[1147] 日常的に利用している電車やバスなどの切符を自販機で買う ・電車やバスを一人で利用して通学に慣れたり、目的地までそれを確実に利用できたりする ・交通機関が遅延した際の対応方法や校外学習時の目的地までの交通機関を知る	

内容	まとめ	観点	T4	T5	
社会参加ときまり	集団生活での役割	知識・技能	[1399] 学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活での中での役割を果たすための知識や技能を身につけている。	[1400] 学級や学校の中で、意見を述べ合い、助け合い、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けている。	社会 ①
		思考・判断・表現	[1401] 集団生活の中で何が必要かに気付き、自分の役割を考え、表現している。	[1402] 周囲の状況を判断し、集団生活の中での自分の役割と責任について考え、表現している。	
公共施設と制度	決まり社会生活での役割	知識・技能	[1403] 家庭や学校でのきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大さがわかっている。	[1404] 家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活を送るために必要であることを理解している。	社会 ①
		思考・判断・表現	[1405] 社会生活ときまりとの関連を考え、表現している。	[1406] 社会生活に必要なきまりの意義について考え、表現している。	
地域の安全	公共施設や制度の役割	知識・技能	[1407] 身近な公共施設や公共物の役割がわかっている。	[1408] 自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解している。	社会 ①
		思考・判断・表現	[1409] 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現している。	[1410] 公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現している。	
	制度社会にみやみや	知識・技能	[1411] 身近な生活に関する制度がわかっている。	[1412] 社会に関する基本的な制度について理解している。	
		思考・判断・表現	[1413] 身近な生活に関する制度について調べ、自分との関わりを考え、表現している。	[1414] 社会に関する基本的な制度について調べ、それらの意味を考え、表現している。	
	災害や事故への対処	知識・技能	[1415] 地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることわかっている。	[1416] 地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	
		思考・判断・表現	[1417] 地域における災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、そこに関わる人々の働きを考え、表現している。	[1418] 過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現している。	

内容	まとめ	観点	T6	T7	
産業と生活	生産活動	知識・技能	[1419] 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われて いることがわかつている。	[1420] 地域では、人々が協力し、産業の発展に努めていることを理解している。	社会 ②
		思考・判断・表現	[1421] 仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現している。	[1422] 人々の活動や産業の歴史的背景などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現している。	
我が国の地理や歴史	我が国の地域	知識・技能	[1423] 販売の仕事は、消費者のことを考え、工夫して行われていることがわかつてい る。	[1424] 水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供 紹や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。	社会 ②
		思考・判断・表現	[1425] 消費者の願いや他地域との関わりなどに着目して、販売の仕事に携 わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考 え、表現している。	[1426] 供給や処理の仕組みや関係機関の協力などに着目して、水道、電 気及びガスなどの生活を支える事業の様子を捉え、それらの事業が果 たす役割を考え、表現している。	
我が国の地理や歴史	我が国の地域	知識・技能	[1427] 身近な地域や自分たちの市の様子がわかつている。	[1428] 自分たちの県の概要を理解してい る。	社会 ②
		思考・判断・表現	[1429] 都道府県（以下第2章第2節第2款第1〔社会〕(2)内容において「県」とい う。）内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現してい る。	[1430] 我が国における自分たちの県の位 置、県全体の地形などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現して いる。	
	我が国の歴史	知識・技能	[1431] 身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移 り変わってき たことを知っている。	[1432] 県内の主な歴史を手掛かりに、先人の働きや出来事、文化遺産など を知ってい る。	
		思考・判断・表現	[1433] 交通や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や 人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現してい る。	[1434] 歴史的背景や現在に至る経緯などに着目し、県内の文化財や年中 行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現している。	

領域	大項目	中項目	小項目	T4			T5		職業生活	
職業分野	職業生活	働くことの意義	働くことの目的	[804] 作業などを通して働く喜びを知る	[805] 職場見学、就業体験等を通して、働いて物を作ったり育てたりすることが社会に役立つことを知る	[806] 将来、働くことを通して自立的な社会参加ができることなどを知る	[807] 働くことで自己実現を図っていくことを理解する	[808] 社会の一員として働くことの大切さを理解する		
			役割	[809] 意欲や見通しを持って取り組み、自分の役割に気づく 注) 作業工程表等を用いて活動内容や終了の確認を行うなど、生徒自身が必要な情報に気づき、判断したり、生徒同士で伝え合ったりする機会を設けること。			[810] 意欲や見通しを持って取り組み、自分と他者の関係や役割について考える 例) 自分の仕事と他者の仕事の分担や関連について理解する、相手の心情を知り望ましい関わり方や態度について考える力を育成する	[811] 協調して仕事をする		
			達成感	[812] 作業や実習等で満足感を得る			[813] 作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組む			
職業	職業生活に必要な技能	職業生活に必要な技能	職業生活に必要な知識	[814] 職業の名称や仕事の内容を知る	[815] 生産品や製品及び商品の名称を知る	[816] 商店や会社の役割を知る	[817] 製作・生産・生育等における作業の分担を理解する	[818] 福祉サービス等の内容や利用方法がわかる		
			材料や道具、機器等の扱い	[819] 道具や機械等の名称を知る	[820] 使用する道具等の扱い方に慣れる		[821] 使用する道具や機械等の扱い方を理解する	[822] 道具や機器の手入れをする	[823] 製品の材料となる素材や生育する生物等の保管・管理	
			生物等の扱い方及び生産や生育活動等に係る基礎的な技術	[825] 作ること、育てること、運ぶこと、計数や量を行なうことなどの主なる作業	[826] 作業の準備に関すること：手洗いや身支度、作業手順や工程の理解、材料や道具の用意など	[827] 作業の片付けや工程の理解、材料や道具の片付け、諸点検など	[828] 材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に係る基礎的な技術について理解する			
			質(確実性)				[829] 正確に作業をする	[830] できばえを意識する、不良品がわかる		
			量(スピード)	[831] 時間や量を意識して作業を進める(タイマーなどの使用)			[832] 自分で目標を意識して作業を進める			
			体力	[833] 決められた時間、立って仕事をする			[834] 連日、立って仕事をする。			
			安全・衛生	[835] 作業にあたり安全や衛生及び効率性について気づき、工夫する			[836] 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて工夫する			
			報告・連絡・相談	[837] 困ったことがあれば助けを求める		[838] 終わったら報告する	[839] 必要な時(節目、トラブル、ミスなど)に気づいて連絡・報告・相談をする			
			計画性	[840] 短い工程がかかる	[841] ひとつの製品ができるがわかる工程がわかる	[842] 担当する作業の内容や方法がわかり、終了の見通しを持って実施できる				
			職業生活に必要な態度	[843] 指示や説明を聞こうとする			[844] 時間帯や場所に応じた適切な服装、動作、言葉遣いを行う			
			協力	[845] 他生徒と一緒に作業をする			[846] 複数の人との協力して作業をする			
			責任感	[847] 仕事の好き嫌いをしないで取り組む			[848] 最後まで自分の仕事に責任を持って取り組む			
			持続性/集中力	[849] 一定の時間、集中して作業に取り組む			[850] 決められた時間、作業に取り組む			
			健康管理	[851] 職業生活に必要な健康管理について気づく			[852] 仕事に安定的に取り組むための健康管理を理解する			
			社会の仕組みを知る	[853] 周囲の人に対談ができる	[854] 相談ができる機関として、各市区町村の福祉課等の役割などについて知る	[855] 職業生活を支える社会の仕組みがあることを理解する				
			作業や実習等との関連	[856] 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気づく			[857] 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について考えて発表する			

領域	大項目	中項目	T4	T5	情報機器の活用
職業分野	情報機器の操作	情報機器の操作	[858] 初歩的な操作の仕方を知る	[859] 基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れる	
		情報機器での表現	[860] 体験したことなどを他者に伝える	[861] インターネットを使った情報収集や画像や映像などにより、体験したことや自分の考えを表現する	
	ルールやマナー／情報リテラシー	[862] 情報機器を利用する際のルールやマナーの理解	[863] インターネット利用上のトラブルなどの危険性を回避する具体的な方法の理解	[864] SNSや通信用アプリの適切な使用（インターネット上の情報収集や情報発信が自分の生活に及ぼす影響を理解する、人権侵害の防止、危険を回避する具体的な方法の理解）	

領域	大項目	中項目	小項目	T4	T5	実習
職業分野	産業現場等における実習	進路	職場見学	[865] 多くの人が仕事を分担、協力して仕事をしていることを知る [866] 身近な品物がどのようにして作られているかを知る		
			調べ学習	[867] 職業や進路に関わることについて関心を持ったり調べたりする	[868] 職業や進路に関わることについて調べて理解する	
			対話的な学び	[869] 職業や職業生活、進路に関わることについて、気づき、他者に伝える	[870] 職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて発表する	

領域	大項目	中項目	小項目	T4	T5	家庭生活
家庭分野	家族・家庭生活	自分の成長と家族		[871] 自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知る	[872] 自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解する	家庭生活
				[873] 家庭における役割や地域との関わりについて関心をもち、知る	[874] 家庭における役割や地域との関わりについて調べて理解する	
		家庭生活における余暇		[875] 健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする	[876] 健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践する	
				[877] 幼児の特徴や過ごし方にについて知る	[878] 幼児への適切なかかわり方について気づく	
		家族や地域の人々との関わり			[879] 地域生活や地域の活動について調べて、理解する	

J 職業・家庭<衣食住>

領域	大項目	中項目	小項目	T4		T5			衣 食 住				
衣 食 住 の 生 活	調理 の 基 礎	食事の役割	[880] 健康な生活と食事の役割について知る	[881] 適切な量の食事をとる	[882] 好き嫌いをせずに自ら食べようとする	[883] 自分の食生活に关心を持ち課題点をあげる	[884] 1日の生活の中で3食を規則正しくとる						
			[885] 簡単な食品名や料理名がわかる				[886] 食品の栄養や組み合わせを考え、1食分の献立を立てる	[887] 栄養素の特徴により3つのグループに分けられることがわかり。食品をグループに分類する	[888] 地域の伝統的な料理、旬の食材、他国のなじみのある料理など食への关心を深める				
		栄養を考えた食事	[890] 冷蔵庫や冷凍庫の使い方を知る				[889] 食品の腐敗や食中毒と関連づけて保存方法や保存期間を理解する						
			[892] 食材、食器などの衛生に気をつける				[893] 衛生に気をつけるために、洗剤等を適切に使う	[894] まな板や布巾を衛生に気を付けて取り扱う	[895] 魚や肉などの生ものの扱いに気をつける				
		ガスや火の扱い	[896] 加熱用調理器具等の取り扱いに注意する				[897] ガスや火の扱いに注意する						
			[898] 手をきれいに洗う	[899] 清潔なエプロンや帽子等を身に付ける	[900] 爪を清潔にする	[901] 体調がわるいときに、自分で調理をしない判断をする	[902] 傷口があったら絆創膏等が必要であることに気づく						
		準備	[906] 準備された分量のみで調理をする				[907] 人数分を考えて調理をする						
			[908] 指定された調理用具を準備する				[909] 調理に適した用具をとりそろえる						
		食材の準備	[910] 献立に合わせ、必要な材料を取りそろえる				[911] 献立に合わせ、必要な材料の買い物をする						
			[912] 端から端まできれいに拭く										
		調理計画	[913] 準備から片付けまでの調理工程を見通す	[914] 自分の役割分担がわかる	[915] 準備から片付けまでの時間配分をする	[916] 計画に沿って手際よく活動する	[917] 協力して作業をすすめる						
			[918] 刃物や火を使わない短時間で比較的単純な工程でできる調理（ちぎる、つぶす、こねる、まぜる） 例) ハムサラダ、フルーツヨーグルト				[919] 工程は少ないが、簡単な計量を要し、刃物や火を使う調理 例) お米を炊く、お茶を入れる、きゅうりの即席漬け、豆腐とわかめの味噌汁、カップケーキ						
	調理 操作	計量	[920] 計量スプーン	[921] 計量カップを使う	[922] はかりを使う	[923] 少々がわかる							
			[924] 洗い桶に水をためて洗う	[925] 泥のついた野菜を洗う				[926] 野菜の特性に応じて、こすり洗い、振り洗い、かき回し洗い、流水洗いをする					
		皮むき器使用の皮むき	[927] さつまいも	[928] ジャガイモ（男爵よりメークイン）				[929] 皮と身の色の区別がしにくい野菜（大根・人参）					
			[930] 包丁を正しく持ち、安全に取り扱う				[931] 調理に応じた様々な切り方があることがわかる 例) ななめ切り、輪切り、うす切り、みじん切り、せん切り、さいのめ切り、いちょう切り等						
		包丁での材料切り	[932] 加熱用調理器具の使用（電子レンジ、ホットプレート、トースター等） 例) ホットプレートでの調理・ホットケーキ、お好み焼き、トースター…トースト				[933] 煮る、炒める、ゆでる、焼くなど火を使った簡単な調理をする 例) ゆでたまご、ゆで野菜、とりそぼろ、いたたまご						
			[934] 決められた量をよそう	[935] コップに飲み物を注ぐ	[936] 指定された箇所に配膳する	[937] 彩り、量、器などを考えてよそう	[938] 自分で判断して人数分配膳する						
		調理用具や食器	[939] 飲み物や食べ物の入った食器を下膳する	[940] 食器や用具を所定の場所に片付ける	[941] 教師の援助を受けて、食器や用具を洗って拭く	[942] 食器や用具を洗って拭く				後 片 付け			
			[943] テーブルや調理台をきれいにする	[944] 教師の支援を受けて、床を掃いたり拭いたりする	[945] ガス台を清掃する	[946] 床を掃いたり拭いたりする							
		ゴミの始末	[947] ゴミを分別して捨てる				[948] 残飯を始末する						
			[949] 場面に応じた衣服の着方を知り実践しようとする	[950] T P Oに応じた衣服の着方	[951] 身だしなみを整える	[952] 行事等によって衣服や着方に決まりがあることに気づく 例) 和服、浴衣							
		衣服の着方	[953] 季節や気温に応じた衣服の選択	[954] 汚れた衣服の始末	[955] 洗濯物の整理	[956] 洗濯機や乾燥機などを使用した衣服の手入れ							
			[957] 窓や換気扇、照明器具や日よけ、カーテンなどの役割	[958] 季節の変化に合わせた住まい方	[959] 清掃用具、掃除機などを使って住居を清潔にする	[960] 室内環境には換気が重要であること理解する	[961] 整理・整頓や清掃などを行い気持ちの良い住まいを工夫する						
	快 適 な 住 ま い 方	安全な住まい方	[962] ガスや火器、刃物などの危険物についての注意				[963] 家庭内で起こる事故を防ぐために（落し物や階段）整理・整頓や清掃が重要であることの理解						
			[964] 扉や窓の施錠や鍵の管理				[965] セールス等の訪問者への対応の仕方						
		(災害に関する内容)	[966] 地震や火事など緊急時に身を守ること				[967] 避難場所や連絡先の理解						

領域	大項目	中項目	小項目	T4				T5				消費生活
家庭分野	消費生活・環境	身近な消費生活	買い物の仕組みや必要な物の選び方	[968] 買い物に係る一連の手順の理解	[969] 家族に頼まれた買い物をする	[970] 自分が必要なものを正しく選ぶ	[971] 計画的なお金の使い方	[972] 同じ物でも品質や価格に違いがあることを知る	[973] 目的に合った物の選び方を知る	[974] 必要な物であるかどうかを考える	[975] 予算内の品物を選ぶ	[976] 電子マネーやプリベイドカードなど現金以外の支払い方を知る
		環境に配慮した生活	環境に配慮した物の使い方	[978] リサイクルを知る 例) 空き缶やペットボトルの回収、ごみの分別の仕方、物を大切に使うこと				[979] 環境に配慮した物の使い方を工夫する 例) エコバッグがごみを減らすことに気づく	[980] エネルギーの無駄遣いを防ぐ習慣を身に付ける 例) 電気の消灯、水の使用			

大項目	中項目	小項目	T1	T2	T3	人との関わり
人と の 関 わり	自分 自身 と 家族	自分の こと	[1080] 自分の名前を呼ばれたときに身振り、表情、拳手や発声などにより返答する。	[1081] 自分の名前を聞かれたときに答える。	[1082] 自分自身のことを簡単に紹介する。	
		家族の こと	[1083] 家族のことがわかる。	[1084] 家族の名前や呼称がわかる。	[1085] 家族について簡単に話したり紹介したりする。	
	身 近 な 人 と の 関 わ り	人の区別	[1086] 自分の身近にいる教師や大人の区別がつく。	[1087] 担任や友達の名前がわかる。	[1088] 担任や友達について簡単に話す。	
		対大人	[1089] 身近な大人とそうでない大人の区別がある。	[1090] 身近な大人を信頼して関わる。	[1091] 特定の大人の意図や感情を理解し、共感的に関わる。	
	電話や来客の 取次ぎ	対子ども	[1092] 場を共有する。	[1093] 活動や物を共有する。	[1094] 順番を理解して活動する。 [1095] 競争や共同性	
			[1096] 電話の機能を知る。電話の音や、人の来訪に気づく。	[1097] 電話がかかってきた時や、人の来訪があった時に、近くにいる大人に知らせる。	[1098] 電話の受け方を知る。来訪者があったときの応対を知る。取り次ぐ時の伝え方がわかる。	
	情動の表出	気持ちを 伝える応対	[1099] 「ありがとう」「ごめんなさい」など気持ちを伝える表現を大人と一緒に使う。	[1100] きっかけのことは手がかりにして「ありがとう」「ごめんなさい」を表現する。	[1101] 御礼や謝罪などの気持ちを、場に応じて表現する。	
			[1102] 「楽しい」「こわい」など、自分の体や心の中で生じている感情を教師が代弁すること、表情絵を示されることを通して、感情を表す表現があることに気づく。	[1103] 自分の体や心のなかで生じている感情を教師の見本やヒントを手がかりに、言葉や身振り、表情絵などで表現しようとする。	[1104] 自分の体や心のなかで生じている感情を適切な身振りやことば、表情絵・記号に当てはめて表現する。	
	情動の識別・ 理解					

大項目	中項目	T1	T2	T3	役割
役割	集団の参加	[1105] 教師と一緒に学級、学年、異年齢など人数や年齢幅が異なる集団に参加し、集団の中で活動することに慣れる。	[1106] 大人の見守りの中で、人数や年齢層が異なる集団に穏やかに参加する。	[1107] 積極的に様々な集団活動に参加する。	
	集団の中での役割	[1108] 教師と一緒に学級内の簡単な係や当番活動をする。	[1109] 教師の支援を受けて、集団活動で簡単な係や当番活動を果たす。	[1110] 集団活動で準備や活動に関する役割を主体的に果たす。	
	地域の行事への参加	[1111] 大人と一緒に地域の行事に参加し、雰囲気を味わう。	[1112] 地域の行事に参加し、大人の支援を受けながら、簡単な買い物をしたり、地域の人たちと一緒に活動したりする。	[1113] 友達と一緒に地域の行事に参加し、主体的に催しものなどを楽しむ。	
	共同での作業と役割分担	[1114] 教師と一緒に簡単な作業を行う。	[1115] 教師の支援をしながら、友だちと一緒に作業を行う。	[1116] 作業分担や役割がわかり、自分から取り組み役割を果たす。	

	第1段階 (出生～3ヶ月)	第2段階 (3ヶ月～6ヶ月)	第3段階 (6ヶ月～2、3歳)	第4段階 (3歳前後)	
アタッチメント（愛着）		[1149] 特定の人物に対する定位と発信	[1150] 発信並び移動による弁別された人物への接近の維持⇒人見知りの始まり、アタッチメント対象への接近行動（後追い行動など）、養育者を安全基地として探索行動を始める	[1151] 目標修正的協調性の形成（養育者の行動の背後にある目標や計画について推測し、それに応じて自身の行動を調節するようになる。必ずしも身体的接近がなくても安心していられるようになる。）	[1152] 自分に生じたネガティブな感情をワーキングモデルをよりどころにして対処するようになる（例：スーパーで駆け回っていた子どもが親の姿が見えなくなり不安な気持ちになったときに、立ちすくむことなく親を探しに行く）

	第1段階 (誕生時)	第2段階 (2～3ヶ月)	第3段階：一次的感情 (3ヶ月以降)	第4段階：二次的感情		
				(1歳半頃)	(2歳前後)	(2歳半～3歳)
感情	[1153] 興奮状態	[1154] 不快	[1156] 怒り・嫌悪・恐れ	[1158] 照れ・恥じらい	[1159] 共感・羨望	[1160] 恥・罪悪感
		[1155] 快	[1157] 喜び			

	第1段階：二項関係の成立 (3～6ヶ月頃)	第2段階：三項関係の成立 (9ヶ月頃)	第3段階：象徴機能の発達 (1歳半～)	第4段階：心の理論の発達 (4歳～5歳)
	(3～6ヶ月頃)	(9ヶ月頃)	(1歳半頃)	(4歳～5歳)
人への関心、共感	[1161] ・新生児模倣（他者の顔の動きを観察して真似する） ・社会的微笑（周りの人間にに対して微笑むようになる） ・養育者が無表情になると自分も無表情になったり泣き出したりする	[1162] 共同注意行動の出現 ・視線追従 ・指さし（要求、指差し）	[1163] 社会的参照	[1164] 「ふり」の出現（例：バナナを電話に見立てて耳に当てる） [1165] 「ごっこ遊び」の展開（例：母親になったつもりで料理を作るふりをする、テレビのキャラクターのふりをして遊ぶ） [1166] 自分が持っている信念とは異なる信念を他者が持つことを理解する c f) 誤信念課題（セリーとアンの課題、スマーティ課題など）

	水準1：前慣習的段階	水準2：慣習的段階	第3段階：脱慣習的段階
道徳判断 (コールバーグ)	[1167] 服従と罰への志向（罰せられることは悪く、罰せられないことは正しいとする）	[1168] 手段的欲求充足（何かを手に入れる目的や見返りのために規則に従う）	[1169] よい子の道徳（他者を喜ばすことはよいことであり、行為のある意図に目を向け始める） [1170] 法と秩序志向（正しいか間違っているかは社会によって決められている。社会的秩序を維持するため法には従わなければならない） [1171] 社会契約志向（法や規則があってそれより重要なものが優先される） [1172] 普遍的な倫理の原理（生命の崇高さと個人の尊重に基づいた自身の原理を発展させている）

	第1段階 生態学的自己	第2段階 対人の自己	第3段階 概念的自己（2歳～）	第4段階 時間的拡大自己（4歳～）	第5段階 私的自己
自己の発達 (ナイサー)	[1173] 周囲の物の見え方や音の聞こえ方、自分の身体を動かしたときの動作感覚といった一定で普遍的な情報ソースから感じる自己	[1174] 対人的なかかわりからの情報に基づく自己	[1175] 自分の名前や姿形などに対する知識に基づく自己	[1176] 自分は過去、現在、未来という時間の流れの中に存在していることの理解に基づく自己（現在の自分は過去や未来の自分自身の影響を受けているという理解がなされる段階）	[1177] 自分が感じることと他者の感じることは同じ場合もあるけれど多くは異なっており、主観的な経験は自他間で共有できないことを理解することによって成立する自己

大項目	中項目	小項目	第1段階	第2段階	心理的安定
心理的な安定	情緒的な安定に関すること	安定した情緒で生活する	[1435] 睡眠、生活リズム、体調を整え、情緒を安定させる。		
			[1436] 興奮を静める方法を知る。 ※自分を落ち着かせる場所に移動する、慣れた別の活動に取り組む、自分の気持ちを伝える手段を身に着ける	[1437] 興奮を鎮める方法を身に着ける。	
			[1438] 必要なことに意識を向ける	[1439] 自分に合った集中の仕方や課題への取り組み方を身に着ける。	
			[1440] 不安を和らげるためのこだわり行動から、次の行動へ移ることができる。	[1441] 不安を和らげるためのこだわり行動から、納得をして次の行動へ移る。	
	状況の理解と変化への対応に関する行動すること	状況や場面の理解	[1442] 教師と一緒に活動しながら、徐々に新しい場面に慣れる。		
			[1443] 必要な情報を得るために、身近な大人に的確な援助を依頼する。		
		状況を理解し、行動する	[1444] 予定や予想される状況などを聞いて、状況を理解して行動する。 ※行事などのあらかじめ決まっている予定変更に対応する。		
			[1445] 急な予定変更に対応する。		
		意欲に関すること	[1446] 周囲の状況に意識を向け、場に応じた行動の仕方を身に着ける		
			[1447] 自分の障害の状態を理解する		
		情動の識別理解	[1448] 自分の障害を受容する。		
			[1449] 自分にとって必要な学習を理解する		
			[1450] 学習や運動において、打ち込めるこを見つける。		
			[1451] 積極的に問題解決に向かう意欲を持つ。		